

Fujitsu Software Systemwalker Operation Manager V17.1.1

リリース情報

UNIX/Windows(R)共通

J2X1-8177-08Z0(00)
2025年8月

まえがき

本書の目的

本書は、Systemwalker Operation Managerでの追加機能、および非互換項目について説明しています。

本書の読者

本書は、Systemwalker Operation Managerの導入や、バージョンアップを検討される方を対象としています。

本書の表記について

固有記事の表記、略称表記については、“[B.1 略称表記について](#)”を参照してください。

登録商標について

登録商標については、“[B.2 商標について](#)”を参照してください。

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

出版年月および版数

| 版数 | マニュアルコード |
|---------------|--|
| 2021年 8月 第1版 | J2X1-8177-01Z0(00)/ J2X1-8177-01Z2(00) |
| 2021年 9月 第2版 | J2X1-8177-02Z0(00)/ J2X1-8177-02Z2(00) |
| 2021年 10月 第3版 | J2X1-8177-03Z0(00)/ J2X1-8177-03Z2(00) |
| 2022年 10月 第4版 | J2X1-8177-04Z0(00)/ J2X1-8177-04Z2(00) |
| 2023年 10月 第5版 | J2X1-8177-05Z0(00)/ J2X1-8177-05Z2(00) |
| 2024年 2月 第6版 | J2X1-8177-06Z0(00)/ J2X1-8177-06Z2(00) |
| 2025年 2月 第7版 | J2X1-8177-07Z0(00)/ J2X1-8177-07Z2(00) |
| 2025年 8月 第8版 | J2X1-8177-08Z0(00)/ J2X1-8177-08Z2(00) |

著作権表示

Copyright 1995-2025 Fujitsu Limited

目次

| | |
|--|----|
| 第1章 追加機能の概要 | 1 |
| 1.1 V17.1.1で追加された機能 | 1 |
| 1.1.1 Job DesignerのMicrosoft(R) Excel 2024対応 | 1 |
| 1.2 旧バージョンで変更された機能 | 1 |
| 1.2.1 V17.1.0で追加された内容 | 1 |
| 1.2.2 V17.0.1で追加された内容 | 1 |
| 1.2.3 V17.0.0で追加された内容 | 2 |
| 第2章 互換に関する情報 | 4 |
| 2.1 V12.0L10/12.0/V12.0L11/12.1からV13.0.0/V13.1.0への移行 | 4 |
| 2.1.1 非互換項目 | 4 |
| 2.2 V13.0.0/V13.1.0からV13.2.0への移行 | 6 |
| 2.2.1 非互換項目 | 6 |
| 2.3 V13.2.0からV13.3.0/V13.3.1への移行 | 9 |
| 2.3.1 非互換項目 | 9 |
| 2.4 V13.3.0/V13.3.1からV13.4.0/V13.4.1への移行 | 15 |
| 2.4.1 非互換項目 | 15 |
| 2.5 V13.4.0/V13.4.1からV13.6.0への移行 | 19 |
| 2.5.1 非互換項目 | 19 |
| 2.6 V13.6.0からV13.6.1への移行 | 21 |
| 2.6.1 非互換項目 | 21 |
| 2.7 V13.6.1からV13.7.0への移行 | 25 |
| 2.7.1 非互換項目 | 26 |
| 2.8 V13.7.0からV13.8.0への移行 | 28 |
| 2.8.1 非互換項目 | 28 |
| 2.9 V13.8.0からV13.9.0への移行 | 33 |
| 2.9.1 非互換項目 | 33 |
| 2.10 V13.9.0からV13.9.1への移行 | 34 |
| 2.10.1 非互換項目 | 34 |
| 2.11 V13.9.1からV16.0.0への移行 | 37 |
| 2.11.1 非互換項目 | 37 |
| 2.11.2 提供を停止した製品 | 39 |
| 2.12 V16.0.0からV16.0.1への移行 | 39 |
| 2.12.1 非互換項目 | 39 |
| 2.13 V16.0.1からV17.0.0への移行 | 40 |
| 2.13.1 非互換項目 | 40 |
| 2.14 V17.0.0からV17.0.1への移行 | 44 |
| 2.15 V17.0.1からV17.1.0への移行 | 44 |
| 2.15.1 非互換項目 | 44 |
| 2.16 V17.1.0からV17.1.1への移行 | 45 |
| 第3章 プログラム修正情報 | 46 |
| 付録A バージョンレベル間機能差一覧 | 47 |
| 付録B 本書の表記、商標について | 62 |
| B.1 略称表記について | 62 |
| B.2 商標について | 66 |

第1章 追加機能の概要

本章では、Systemwalker Operation Managerを本製品バージョンレベルに移行した場合に追加される新機能や変更点について説明します。

1.1 V17.1.1で追加された機能

V17.1.1で新しく追加された内容について説明します。

1.1.1 Job DesignerのMicrosoft(R) Excel 2024対応

Job DesignerがMicrosoft(R) Excel 2024に対応しました。

1.2 旧バージョンで変更された機能

1.2.1 V17.1.0で追加された内容

V17.1.0で新しく追加された内容について説明します。

Windows Server 2025に対応

Systemwalker Operation Managerの対応OSに、下記が追加となりました。

| | |
|--------|---------------------|
| サーバOS: | Windows Server 2025 |
|--------|---------------------|

クラウドサービス連携の拡充【Windows版】【Linux版】

REST実行ジョブを利用して連携するクラウドサービスの種類を拡充しました。

連携可能なクラウドサービスについては、“Systemwalker Operation Manager 解説書”の“対応クラウド環境”を参照してください。

jobschprint -e|-p|-wコマンドの-jesオプション

jobschprint -e(-E)|-p(-P)|-w(-W)コマンドで、ジョブ名を出力させる-jesオプションが指定可能になりました。

jobschprint コマンドについては、“Systemwalker Operation Manager リファレンス集”を参照してください。

1.2.2 V17.0.1で追加された内容

V17.0.1で新しく追加された内容について説明します。

Red Hat Enterprise Linux 9に対応

Systemwalker Operation Managerの対応OSに、下記が追加となりました。

サーバOS：Red Hat Enterprise Linux 9

PATH環境変数の設定

ジョブファイルの検索に使用するPATH環境変数に、任意のパスを追加できるようになりました。

パスを、PATH環境変数定義ファイルにまとめて定義することで、ジョブごとにフルパスで指定する必要がなくなります。

jobschsetauthinfoコマンドのMicrosoft IDプラットフォーム(V2.0)エンドポイント対応

jobschsetauthinfoコマンドで、Microsoft IDプラットフォーム(V2.0)エンドポイントの形式の認証情報の登録が可能になりました。

REST実行ジョブを使用したMicrosoft Azureのサービスとの連携に、Microsoft IDプラットフォーム(V2.0)エンドポイントを使用した認証を利用できるようになります。

jobschsetauthinfoコマンドについては、“Systemwalker Operation Manager リファレンス集”を参照してください。

リモートマシンでのジョブ実行時のSSH通信に利用可能な公開鍵暗号方式の追加【Windows版】

リモートマシン上でジョブを実行させる(mjrmtjobコマンド利用)SSH通信で、公開鍵暗号方式として従来のRSAに加えて、ECDSAを利用できるようになりました。

公開鍵は、mjkeygenコマンドで作成します。mjkeygenコマンドについては、“Systemwalker Operation Manager リファレンス集”を参照してください。

1.2.3 V17.0.0で追加された内容

V17.0.0で新しく追加された内容について説明します。

Windows Server 2022およびWindows(R) 11に対応

Systemwalker Operation Managerの対応OSに、下記が追加となりました。

サーバOS：Windows Server 2022

クライアントOS：Windows(R) 11

クラウドサービス連携【Windows版】【Linux版】

クラウドサービスと連携するジョブとして、REST実行ジョブが追加されました。

クラウドでの運用性向上【Windows版】【Linux版】

クラウドサービスと連携して、オートスケールを利用した分散実行機能を利用できるようになりました。クラウドサービスからの通知により、業務量やリソース使用量に応じたホストグループの実行サーバ数の増減ができます。

Web API【Windows版】【Linux版】

Systemwalker Operation Managerを外部から利用するための、RESTインターフェースが利用できるようになりました。公開するURIにHTTPメソッドでアクセスすることで、Systemwalker Operation Managerの操作/情報取得/定義変更ができます。

Web APIの詳細については、“Systemwalker Operation Manager リファレンス集”の“Web API【Windows版】【Linux版】”を参照してください。

WebコンソールのMicrosoft Edge対応

Microsoft EdgeのIEモードで、Webコンソールが利用できるようになりました。

Microsoft EdgeのIEモードについては、Microsoftの公開ドキュメントを参照してください。

Job DesignerのMicrosoft(R) Excel 64bit版対応

Job Designerが64bit版のMicrosoft(R) Excelに対応しました。

LDAP管理のユーザーに対応

OpenLDAPで管理されたユーザおよびグループで、Systemwalker Operation Managerを利用できるようになりました。

詳細については、“Systemwalker Operation Manager 導入ガイド”を参照してください。

[ログイン]ウィンドウのホスト名/ユーザーID入力域の履歴表示

[ログイン]ウィンドウ(※)で、ホスト名およびユーザーID入力域がコンボボックスになりました。過去の入力履歴が保存され、選択可能となります。

※対象の[ログイン]ウィンドウ

- ・ [Systemwalker Operation Manager [ログイン]]ウィンドウ
- ・ [Systemwalker Operation Manager環境設定 [ログイン]]ウィンドウ
- ・ [ジョブスケジューラ情報印刷 [ログイン]]ウィンドウ
- ・ [複数サーバ監視 [ログイン]]ウィンドウ
- ・ [マスタスケジューラ管理状況監視 [ログイン]]ウィンドウ 【EE/GEE】
- ・ [マスタスケジューラ管理環境設定 [ログイン]]ウィンドウ 【EE/GEE】

インポート/エクスポートのGUI操作性向上

[Systemwalker Operation Manager インポート]ウィンドウおよび[Systemwalker Operation Manager エクスポート]ウィンドウ上で、インポート先/エクスポート先を表示させる際の画面操作性が向上しました。

ジョブ定義変数の定義数上限値の拡張

ジョブ定義変数として定義できる個数の上限値が拡張(旧版:100個→今版:1000個)されました。

mjrmtjobコマンドのポート番号指定実行

mjrmtjob(リモートマシン上のコマンド/シェルスクリプト実行)コマンドで、ポート番号の指定が可能になりました。任意のポート番号指定により、リモートマシン上でよりセキュアにジョブを実行できるようになります。mjrmtjobコマンドについては、“Systemwalker Operation Manager リファレンス集”を参照してください。

jobschsetnetコマンドの-ncheallオプション

jobschsetnetコマンドに-ncheallオプションが追加になりました。これにより、ジョブネットを変更する際に、オペランドの指定値を省略値に戻すことができるようになりました。

プロジェクト情報制御文出力コマンド

プロジェクト情報を制御文形式で出力するコマンド“stemprintprojectコマンド”が追加されました。これにより、プロジェクト情報の移行や流用が容易になります。

stemprintprojectコマンドについては、“Systemwalker Operation Manager リファレンス集”を参照してください。

プロジェクト内ジョブネット/グループの一括制御コマンド

プロジェクト内のジョブネットおよびグループを一括制御(すべて停止/すべて停止解除/すべて無効/すべて無効解除)するコマンド“jobschoperateコマンド”が追加されました。

jobschoperateコマンドについては、“Systemwalker Operation Manager リファレンス集”を参照してください。

ジョブの多重度拡張【Windows版】

Windows版において、1つのシステムで同時起動できるジョブ数の設定上限値が拡張されました。

(旧版：最大99多重まで→V17.0.0：最大999多重まで)

クライアント、コマンド、および、Webコンソールで設定できます。

第2章 互換に関する情報

本章では、Systemwalker Operation Managerをバージョンアップするときの注意事項、および非互換項目について説明します。

移行時の注意事項と非互換項目の確認範囲

本章では、Systemwalker Operation Manager V12以降のバージョンアップ時の注意事項と非互換項目について、旧バージョンより順番に記載しています。移行元製品が該当するバージョンの節以降、すべての記事を順番に確認してください。

2.1 V12.0L10/12.0/V12.0L11/12.1からV13.0.0/V13.1.0への移行

Systemwalker Operation Manager V12.0L10/12.0/V12.0L11/12.1からSystemwalker Operation Manager V13.0.0/V13.1.0へ移行する場合の非互換項目を示します。

2.1.1 非互換項目

Systemwalker Operation Manager V12.0L10/12.0/V12.0L11/12.1から移行する場合の非互換項目について説明します。

電源制御の非互換項目

- MS-Mailがサポートされなくなったため、以下の設定ができなくなりました。【Windows版】
 - 終了監視オプションにて、[監視対象のみ終了時のオペレータへの通知]の手段として、MS-Mailが使用できなくなりました。
[対処方法]
E-Mailを使用してください。

ジョブスケジューラの非互換項目

- MS-Mailがサポートされなくなったため、以下の設定ができなくなりました。【Windows版】
 - ジョブネットが異常終了したときに、MS-Mailによる利用者への通知ができなくなりました。
[対処方法]
なし
 - MS-Mail受信を契機としたジョブネットの起動ができなくなりました。
[対処方法]
E-Mailを使用してください。
- shutdown.exeコマンドが使用できなくなりました。これにより、シャットダウン出口(プログラム)が変更されました。【Windows版】
[対処方法]
旧バージョンのシャットダウン出口(プログラム)でshutdown.exeを利用している場合、マシンをシャットダウンしようとしても、shutdown.exeが存在しないため、出口が異常終了します。この場合は、シャットダウン出口(プログラム)で、OSが提供するシャットダウンコマンドを利用するように変更してください。
設定方法については“Systemwalker Operation Manager 運用ガイド”を参照してください。
- [表示開始時刻の設定]ウィンドウで、開始時刻の指定が“時分”から“時”のみになりました。
[対処方法]
なし

イベント監視・アクション管理についての非互換項目

- MS-Mailがサポートされなくなったため、以下の設定ができなくなりました。【Windows版】
 - 電子メール(MS-Mail)による文書の通知ができなくなりました。
[対処方法]
E-Mailを使用してください。
 - 旧バージョンのSystemwalker Operation Managerで提供された“アクション実行API”の、“Mp_SendMSMail”が使用できなくなりました。ここでいう旧バージョンは以下になります。
 - MpWalker/JM V3.0
 - SystemWalker/OperationMGR V4.0
[対処方法]
なし

業務連携の非互換項目

- RASCI.EXEリモートアクセス制御コマンドが使用できなくなりました。
[対処方法]
なし
- 以下のUDPポートを使用しなくなりました。
 - 2681/udp
 - 2686/udp
[対処方法]
なし

メッセージについての非互換項目

- 以下のメッセージに、“プロジェクト名”と“ジョブネット名”が追加されました。
 - MpMjes: WARNING: 10114
 - MpMjes: 警告: 9006
変更されたメッセージの詳細は、“Systemwalker Operation Manager メッセージ集”を参照してください。
[対処方法]
メッセージ本文をアプリケーションプログラムや監視プログラムなどで利用している場合は、新しいメッセージ本文を認識するように変更してください。
- 以下のメッセージに、“LANG環境変数を変更し、再実行してください。”が追加されました。
 - MpJobsch: WARNING: 0288
 - MpStem: ERROR: 10324
変更されたメッセージの詳細は、“Systemwalker Operation Manager メッセージ集”を参照してください。
[対処方法]
メッセージ本文をアプリケーションプログラムや監視プログラムなどで利用している場合は、新しいメッセージ本文を認識するように変更してください。
- 以下のメッセージが削除されました。
 - MpJobsch:警告: 3288
[対処方法]

なし

- UDPポート(2681/udp、2686/udp)が削除されたため、以下のメッセージが出力されなくなりました。

- mpnjsosv: エラー: 10265

- mpnjsosv: エラー: 10308

- “クライアント業務連携エンジン起動時に次のエラーが発生しました。Error Event ID(0xA819)・・・”

[対処方法]

なし

- MS-Mailがサポートされなくなったため、以下のメッセージが削除されました。

- “MpAosfPで始まるメッセージ【Windows】” のメッセージ

- ID:212～218、260～263、2100～2102

[対処方法]

なし

インストール機能についての非互換項目

- サーバ機能のインストールが以下のように変更になりました。
 - 新規インストールで、Systemwalker Operation Manager環境設定クライアントがインストールされなくなります。

[対処方法]

Systemwalker Operation Manager環境設定クライアントをインストールする場合は、[オプション機能の選択]画面で[Operation Managerクライアント機能]チェックボックスをチェックしてください。

- アップグレードインストールで、Systemwalker Operation Manager環境設定クライアントのみがインストールされている場合、Systemwalker Operation Manager環境設定クライアントとSystemwalker Operation Managerクライアントがインストールされます。

[対処方法]

なし

旧バージョンへの接続についての非互換項目

- Systemwalker Operation Manager V13.0.0から、MpWalker/JMへの接続はサポート対象外となりました。
 - MpWalker/JMへ接続するためのクライアント画面がインストールされなくなるため、MpWalker/JMへの接続ができなくなります。

[対処方法]

なし

本バージョンに移行するには、“[移行時の注意事項と非互換項目の確認範囲](#)”を参照して、移行時の注意事項と非互換項目を順番に確認してください。

2.2 V13.0.0/V13.1.0からV13.2.0への移行

Systemwalker Operation Manager V13.0.0/V13.1.0からSystemwalker Operation Manager V13.2.0へ移行する場合の非互換項目を示します。

2.2.1 非互換項目

Systemwalker Operation Manager V13.0.0/13.1.0から移行する場合の非互換項目について説明します。

ACLの非互換項目

- 拡張ユーザ管理機能利用時に、mpsetpasswdコマンドでOperation Managerユーザのパスワードを設定する場合、パスワードに指定する文字数が16バイト以内だったのが、5~16バイトになりました。

[対処方法]

なし

旧バージョンからポリシー配付および、バージョンアップを行った場合は、Operation Managerユーザのパスワード情報はそのまま引き継がれます。次回パスワード変更時から、5バイト以上のパスワード設定が必要となります。

- mpsetaclコマンドの-pオプションで、正しい値(w,c,x,r)が1つだけ指定された場合のみ、正常終了するようになりました。

[対処方法]

なし

- mplstacluserコマンドで、-sオプションを省略した場合、または“-s 0”を指定した場合には、すべてのサブシステムに登録されているプロジェクトに、アクセス権が設定されたユーザー一覧を表示していましたが、V13.2.0からは、サブシステム0に登録されているプロジェクトに、アクセス権が設定されたユーザー一覧を表示するようになりました。

[対処方法]

従来どおり、すべてのサブシステムに登録されているプロジェクトを対象に、アクセス権が設定されたユーザー一覧を表示するには、以下のように、作成されているサブシステムごとに複数回コマンドを投入して表示させてください。

例)サブシステム0,1,3が存在する場合

```
mplstacluser -s 0
mplstacluser -s 1
mplstacluser -s 3
```

ジョブスケジューラについての非互換項目

- jobschsetnetコマンドで、グループ内ジョブネットの起動条件を“なし”に変更できません。

[対処方法]

なし

- ログインユーザのパスワード有効期限が本日である場合、Systemwalker Operation Managerの各クライアントからログインできません。(Solaris版)

[対処方法]

ログインユーザのパスワードを変更してください。

ジョブスケジューラ/マスタスケジュール管理機能共通の非互換項目

- 起動条件が、[メッセージ事象発生時のみ起動][一日一回]が設定されており、かつ以下の設定となっているジョブネットの動作が変更になりました。

— [開始予定時刻]および[日変わり時刻到来時に持ち越し処理を行う]が設定されていないジョブネットが日変わり時刻を迎えた場合、前日分のジョブネットの状態が引き継がれるようになりました。

— [開始予定時刻]が設定されており、[日変わり時刻到来時に持ち越し処理を行う]が設定されていないジョブネットが日変わり時刻を迎え、本日が非起動日であった場合、前日分のジョブネットの状態が引き継がれるようになりました。

— [開始予定時刻]が設定されていないジョブネットに対して“終了取消”操作を行った場合、ガントチャート上に“実行待ち”状態として表示されるようになりました。([開始予定時刻]が設定されているジョブネットに対して“終了取消”操作を行った場合と同じ動作になります。)

[対処方法]

なし

EE GEE マスタスケジュール管理機能についての非互換項目

- マスタスケジュール管理機能を使用している環境で[ポリシーの抽出]ウィンドウの[登録情報]シートで[ジョブスケジューラ]-[スケジュール・起動日雛形]を指定した場合、運用日管理プロジェクトがポリシー情報の対象から除外されました。

[対処方法]

なし

- jobschmsgeventex メッセージ事象発生コマンドで、運用日管理プロジェクトに登録されていないジョブ、または運用日管理プロジェクトに登録されているネットワークジョブや分散実行ジョブから-dxオプションを指定して実行した場合、旧版では-dxオプションが無視されていたのが、-dxオプションが無視されずにメッセージ事象の発生に失敗するようになりました。

[対処方法]

-dオプションを使用して、メッセージ事象を発生させる運用日を指定してください。

ジョブ実行制御についての非互換項目

- ネットワークジョブにおいて、実行優先度を指定した場合、実行サーバ上で動作するジョブに指定した実行優先度が反映されるようになりました。

[対処方法]

なし

- [ジョブ所有者情報の定義]ウィンドウにおいて、所有者が同じプロジェクトが複数存在する場合、パスワード情報が“未定義”のプロジェクトに対してパスワード情報を定義すると、所有者が同じで、かつパスワード情報が未定義の他のプロジェクトにもすべて定義が反映されるようになりました。詳細は、“Systemwalker Operation Manager 導入ガイド”の“ジョブ所有者情報の定義【Windows版】”を参照してください。

[対処方法]

なし

- [登録-ジョブ]ウィンドウ-[詳細情報]シートの[実行ユーザ名]にドメインユーザが指定できるようになりました。

[対処方法]

なし

アクション管理についての非互換項目

- Windows Vista(R)では、ログオンした場合に音声通知、ポケットベル通報ができます。

[対処方法]

なし

メッセージについての非互換項目

- 以下のメッセージに、“[-toplevel]”が追加されました。

— Mpjobsch: ERROR: 0004

— Mpjobsch: 情報: 1004

— Mpjobsch: ERROR: 0313

— Mpjobsch:情報 :1313

— Mpjobsch: ERROR: Usage: jobschprintcsv

変更されたメッセージの詳細は、“Systemwalker Operation Manager メッセージ集”を参照してください。

[対処方法]

メッセージ本文をアプリケーションプログラムや監視プログラムなどで利用している場合は、新しいメッセージ本文を認識するように変更してください。

2.3 V13.2.0からV13.3.0/V13.3.1への移行

Systemwalker Operation Manager V13.2.0からSystemwalker Operation Manager V13.3.0/V13.3.1へ移行する場合の非互換項目を示します。

2.3.1 非互換項目

Systemwalker Operation Manager V13.2.0から移行する場合の非互換項目について説明します。

ACLの非互換項目

拡張ユーザ管理機能で登録可能なユーザーIDおよびパスワードの最大文字数が以下のとおり拡張されました。

| 項目 | V13.2.0以前 | V13.3.0 |
|--------|-----------|---------|
| ユーザーID | 12バイト | 20バイト |
| パスワード | 16バイト | 50バイト |

電源制御についての非互換項目

- ・ ポップアップの通知先に指定するマシンがWindows Vista(R)の場合、以下のいずれかの製品をインストールしてください。
 - － Systemwalker Centric Manager
 - クライアント[選択オプション：アクション実行（音声通知）]
 - 運用管理クライアント[選択オプション：アクション実行（音声通知）]
 - 業務サーバ
 - 部門管理サーバ
 - 運用管理サーバ
 - － Systemwalker Operation Manager
 - クライアント[選択オプション：アクション実行（音声通知）]
 - サーバ

ジョブスケジューラについての非互換項目

- ・ ジョブ定義中の[コマンド][パラメタ][依頼ホスト名]に文字列“@.VPARAM@”が存在した場合、この文字列は、可変パラメタを置き換えるための変数として扱われます。
- ・ 以下のメニューの名称が[複写]から[再利用]に変更されました。機能に変更はありません。
 - － [Systemwalker Operation Manager]ウィンドウの[ファイル]メニューの[複写]
 - － 業務選択ツリーのジョブスケジューラ機能選択時に表示されるポップアップメニューの[複写]
 - － [ジョブネット管理]ウィンドウの[ファイル]メニューの[複写]
 - － [ジョブネット管理]ウィンドウのポップアップメニューの[複写]
- ・ [ジョブ一覧]ウィンドウの[メッセージ待ち]の“あり”が、メッセージの発生状況に合わせた“すべて発生”、“いくつか発生”、“未発生”のいずれかの表示に変更されました。
- ・ ジョブスケジューラに登録できるプロジェクト数の上限が1000に拡張されました。

- jobschprint -rコマンドおよびjobschprint -Rコマンドで出力される制御文の種類が追加されました。

[対処方法]

出力した制御文をV13.2.0以前のバージョンで利用する場合、追加された制御文情報を削除して利用してください。

ジョブ制御文： iconposition

グループ内ジョブネット制御文： iconposition

- Systemwalker Operation Manager V11.0L10/11.0で削除されたジョブフローのアイコンアニメーション機能が、新しい表示形式になってV13.3.0より利用できるようになりました。詳細については、オンラインヘルプまたは“Systemwalker Operation Manager 運用ガイド”を参照してください。

- スケジュールファイルおよび退避スケジュールファイルの拡張子が変更されました。

－ “プロジェクト名.dbx” が “プロジェクト名.dbz” に変更

－ “プロジェクト名.grp” が “プロジェクト名.grz” に変更

[対処方法]

上記のファイルを利用している場合は、新しいファイル名で参照するよう変更してください。

- ジョブの前回履歴ファイル名(ジョブの標準出力および標準エラー出力)が変更になりました。

【Windows版】

[旧ファイル名]

“プロジェクト名_ジョブネット名_nnn.log” (nnnは任意の数字)

[新ファイル名]

“プロジェクト名_ジョブネット名_cccccccccccccccc.log” (ccccccccccccccccは任意の文字)

【UNIX版】

[旧ファイル名]

“プロジェクト名_ジョブネット名.log”

[新ファイル名]

“プロジェクト名_ジョブネット名_nn.log” (nnは任意の数字)

[対処方法]

上記のファイルを利用している場合は、新しいファイル名で参照するよう変更してください。

- jobschmsgeventコマンドに指定するメッセージ事象名/プロジェクト名/ジョブネット名に対して、それぞれ以下で示す長さで制限値のチェックが行われるようになりました。

－ メッセージ事象名：12バイト

－ プロジェクト名：50バイト

－ ジョブネット名：50バイト

なお、受け手側のジョブネットには影響ありません。

[対処方法]

なし

- Operation Manager クライアントの以下の項目に対して、フルパスチェックを行わなくなりました。

－ [登録/監視－ジョブ]ウィンドウ－[詳細情報]シートの[標準出力ファイル名]

－ [登録/監視－ジョブ]ウィンドウ－[詳細情報]シートの[標準エラー出力ファイル名]

[対処方法]

なし

- jobschprintcsv -gおよびjobschprintcsv -fコマンドの出力結果に表示される“End Code”（終了コード）の表示形式が、以下のように変更になりました。

[V13.2.0以前]

“End Code” が1～3桁の場合は、空白文字で3桁にパディング

[V13.3.0以降]

“End Code” をそのまま出力

[対処方法]

“End Code” を利用している場合は、Systemwalker Operation Manager V13.2.0までと値が異なる場合があるため、注意が必要です。

設定項目の文字数制限についての非互換項目

以下の設定項目の設定可能な文字数が拡張されました。

| 項目 | V13.2.0以前 | V13.3.0 |
|-------------------|-------------------------|---------|
| ジョブネット名 | 8バイト | 50バイト |
| ジョブネット名称 | 24バイト | 100バイト |
| グループ名 | 8バイト | 50バイト |
| グループ名称 | 24バイト | 100バイト |
| ジョブのコマンド名 | 64バイト | 300バイト |
| プロジェクト名 | 20バイト | 50バイト |
| マスタプロジェクト名 (注) | 15バイト | 45バイト |
| ユーザーID | 20[windows]/12[UNIX]バイト | 20バイト |
| パスワード | 14[windows]/16[UNIX]バイト | 50バイト |

注) マスタスケジュール管理機能利用時のみ

以下のウィンドウ操作時に“指定の機能は当バージョンでは未サポートです。”などの警告ダイアログボックスが表示され、情報が表示されないなどの現象が発生します。

- 業務選択ウィンドウに表示されるプロジェクト名、ジョブネット名、ジョブネット名称、グループ名、グループ名称が旧バージョンでの文字数制限を超えた場合は、上記メッセージが表示され、サブシステム全体の情報が表示されません。
- [ジョブ一覧]ウィンドウ、[ジョブネットの監視]ウィンドウに表示されるジョブのコマンド名が旧バージョンでの文字数制限を超えた場合には、上記メッセージが表示され、[ジョブ一覧]ウィンドウ、[ジョブネットの監視]ウィンドウは表示されません。
- [ジョブ状態表示/操作]ウィンドウにおいて、“ジョブ”を選択時、ジョブのコマンド名が旧バージョンでの文字数制限を超えた場合には、上記メッセージが表示され、情報が表示されません。
- [キュー詳細情報の表示]ダイアログボックスの[ジョブ一覧]シートに表示されるジョブのコマンド名が旧バージョンでの文字数制限を超えた場合には、上記メッセージが表示され、情報が表示されません。
- [登録情報の参照]ウィンドウに表示されるプロジェクト名、ジョブネット名、ジョブネット名称、グループ名、グループ名称が旧バージョンでの文字数制限を超えた場合には、上記メッセージが表示され、[登録情報の参照]ウィンドウは開きません。
- [ジョブスケジューラ情報印刷]ウィンドウに表示されるジョブネット名、ジョブネット名称、グループ名、グループ名称が旧バージョンでの文字数制限を超えた場合には、上記メッセージが表示され、情報が表示されません。(白紙のまま)
- [ジョブネット一括管理]ウィンドウに表示されるジョブネットのプロジェクト名、ジョブネット名、ジョブネット名称、グループ名称、親ジョブネット名、親ジョブネット名称が旧バージョンでの文字数制限を超えた

場合には、[ジョブネット一括管理]ウィンドウの状況に“ホスト名: サブシステム番号: 指定の機能は当バージョンでは未サポートです。”のメッセージが表示され、対象サブシステムの情報が表示されません。

- [マスタスケジュール管理状況監視[持ち越しジョブネットの監視]]ウィンドウにおいて、持ち越しジョブネットに表示されるプロジェクト名、ジョブネット名、ジョブネット名称が旧バージョンでの文字数制限を超えた場合には、“持ち越しジョブネット情報の取得に失敗しました。”のエラーダイアログが表示され、持ち越しジョブネット情報が空の[マスタスケジュール管理状況監視[持ち越しジョブネットの監視]]ウィンドウが表示されます。

これらの他にWebGUIにおいても、上記のメッセージが表示されて利用できない機能があります。

[対処方法]

新バージョンのサーバにて、旧バージョンでの文字数制限を超える定義をする場合、および旧バージョンでの文字数制限を超える定義を含んだ情報を表示する場合は、新バージョンのクライアントを接続してください。

ジョブ実行制御についての非互換項目

- UNIX版の場合でジョブが強制終了状態の場合は、以下のウィンドウにジョブの出力情報が表示されませんでした。V13.3.0から表示されるようになりました。
 - [監視-ジョブ]ウィンドウ-[前回履歴]シート
 - [ジョブの出力情報]ウィンドウただし、[旧バージョン互換 (旧・標準)]の場合は、従来どおりジョブの出力情報は表示されません。
- Systemwalker Operation Managerを新規インストールした場合、ジョブの起動方法はジョブオブジェクトモードとなります。以下の動作が変更になります。
 - ジョブ(親プロセスおよび子プロセス)で例外が発生した場合、ジョブで例外が発生した旨のメッセージが前回履歴に表示されましたが、例外が発生した旨のメッセージが前回履歴に表示されなくなります。
 - JCLのジョブで例外が発生したときに、通常のステップは実行されずonlyを指定した最終ジョブステップが実行されましたが、通常のstepが実行されてonlyを指定した最終ジョブステップは実行されなくなります。
 - ジョブの子プロセスで例外が発生した場合、子プロセスの例外コードをジョブの終了コードとしていましたが、親プロセスの終了コードがジョブの終了コードとなります。
 - qsubコマンドの-ntオプション(非トレースモード)は無効となります。
 - ジョブオブジェクトを利用したアプリケーションは起動できません。

[対処方法]

Windows版の場合、トレースモードに変更することで、上記の非互換は発生しなくなります。トレースモードに変更する場合は、[運用情報の定義]ウィンドウの[利用機能]シートで、[ジョブオブジェクトモードを有効にする]チェックボックスのチェックをはずしてください。

- ジョブプロセスの起動モードが以下のように変更されました。
 - Windows for Itanium版では、トレースモード、非トレースモードは使用できません。
 - Windows for Itanium版において、V13.2.0以前のバージョンレベルからバージョンアップした場合のジョブ起動モードはジョブオブジェクトモードとなります。
- 旧互換負荷分散機能を利用する場合、V13.2.0以前のサーバに対してジョブを投入することも、V13.2.0以前のサーバからジョブを受け付けることもできなくなりました。V13.3.0以降のサーバと連携するようにしてください。

[対処方法]

分散実行機能を利用してください。分散実行機能であれば異なるバージョンレベルのサーバに対するジョブの実行依頼や異なるバージョンレベルのサーバからのジョブの受け付けが可能です。

- ジョブ所有者情報の定義で、以下のエラーメッセージが出力されるようになりました。【Windows版】
 - 認証エラーが発生しました。code = xxxx

[パラメタの意味]

xxxx：認証中に発生したOSのエラーコード

以下の原因が考えられます。

- OSの設定でユーザアカウントが次回ログオン時にパスワードを変更する必要がある、または、アカウントが無効になっています。

[対処方法]

ジョブ所有者情報の定義を行おうとしたユーザにジョブの実行権を与えてもよい場合は、OSの設定でユーザアカウントのパスワードを設定するか、ユーザアカウントを有効にしてください。

クライアント機能についての非互換項目

- V13.3.0以降のサーバに接続している場合、[登録-ジョブ]ウィンドウの[詳細情報]タブの[標準出力ファイル名]および、[標準エラー出力ファイル名]に絶対パス以外の形式で文字列を指定できるようになりました。これはジョブ定義変数を指定する場合は、必ずしもパス形式とならないためです。

[対処方法]

なし



マスタスケジュール管理機能についての非互換項目

- 旧バージョンのスケジュールサーバへスケジュール情報の分散が可能となりました。詳細は、“Systemwalker Operation Manager マスタスケジュール管理 ユーザーズガイド”の“管理サーバ・スケジュールサーバ接続のサポート範囲”を参照してください。

[対処方法]

なし

Job Designerについての非互換項目

- ダブルクォーテーション(")およびコンマ(,)が入出力可能なオペランドの場合、CSV出力結果が変更されます。
 - データの両端にダブルクォーテーション(")が付与され、入力された文字列にダブルクォーテーション(")が含まれる場合は、[""]に変更されて出力されます。
 - 出力したCSVファイルを、V13.2.0以前のJob Designerで利用する場合、ダブルクォーテーション(")およびコンマ(,)を削除して利用する必要があります。
- V13.2.0以前では、一括編集シートのウィンドウ枠固定は[実行属性]までとし、[<起動条件>]以降をスクロール可能としていましたが、V13.3.0よりウィンドウ枠固定は[ジョブネット名称]までとし、[ジョブネット内ジョブ数]以降がスクロール可能となります。

アクション管理についての非互換項目

- [アクション定義]ダイアログボックス-[ポップアップ]シートの[宛先リスト]に指定するマシンがWindows Vista(R)の場合、以下のいずれかの製品をインストールしてください。
 - Systemwalker Centric Manager
 - クライアント[選択オプション：アクション実行（音声通知）]
 - 運用管理クライアント[選択オプション：アクション実行（音声通知）]
 - 業務サーバ
 - 部門管理サーバ
 - 運用管理サーバ
 - Systemwalker Operation Manager
 - クライアント[選択オプション：アクション実行（音声通知）]
 - サーバ

- ポケットベル通報ができなくなりました。

[対処方法]

ショートメールによる通報を利用してください。

イベント監視についての非互換項目

[イベント監視の条件定義]ウィンドウの以下のメニューが削除されました。

- [イベント]–[イベントの複写]
- [アクション]–[アクションの複写]

[対処方法]

[編集]メニューまたはキーボード操作による、コピー／貼り付けを利用してください。

連携機能についての非互換項目

Systemwalker Centric Managerと連携する場合に、クライアントは常に管理者として起動していましたが、V13.3.0からユーザ認証されて起動するように変更されました。

メッセージについての非互換項目

- 以下のメッセージにおいて、“ポケットベル” が “ショートメール” に変更になりました。

- MpAosfB: エラー: 3100
- MpAosfB: エラー: 3106
- MpAosfB: エラー: 4100
- MpAosfB: エラー: 4106
- MpAosfB: エラー: 5006

[対処方法]

メッセージ本文をアプリケーションプログラムや監視プログラムなどで利用している場合は、新しいメッセージ本文を認識するように変更してください。

- 以下のメッセージ本文中の上限値が変更になりました。
- MpJobsch: エラー: 6029
- MpJobsch: ERROR: 0258
- The user name must be specified within 20 bytes.
- The password must be specified within 50 bytes.
- MpJobsch: 警告: 3303:
- MpJobsch: エラー: 6029
- MpJobsch: ERROR: 0029
- MpJobsch: WARNING: 0029
- MpJobsch: ERROR: 0182
- MpJobsch: エラー: 7182
- MpJobsch: エラー: 6316
- 以下のメッセージ本文中のオプション表記が変更になりました。
- MpJobsch: ERROR: 0004
- MpJobsch: ERROR: 0313
- MpJobsch: 情報: 1004

— MpJobsch:情報 :1313

[対処方法]

メッセージ本文をアプリケーションプログラムや監視プログラムなどで利用している場合は、新しいメッセージ本文を認識するように変更してください。

- ジョブ実行制御コマンドの出力メッセージの本文中にある“99”が“X”に変更になりました。
 - An illegal value is set to the maxexec parameter. Specify the process multiplicity between 1 and 99
- 変更されたメッセージの詳細は、“Systemwalker Operation Manager メッセージ集”を参照してください。

2.4 V13.3.0/V13.3.1からV13.4.0/V13.4.1への移行

Systemwalker Operation Manager V13.3.0/V13.3.1からSystemwalker Operation Manager V13.4.0/V13.4.1へ移行する場合の非互換項目を示します。

2.4.1 非互換項目

V13.3.0/V13.3.1から移行する場合の非互換項目について説明します。

スタートアップアカウントについての非互換項目

- インストール時にスタートアップアカウントの入力が不要となり、サービスのスタートアップアカウントが、ローカルシステムアカウントに変更になりました。

これにより、スタートアップアカウントのパスワード変更コマンド“pwchangeoコマンド”が提供されなくなりました。

また、[運用情報の定義]ウィンドウ-[利用機能]シートで[ジョブを所有者の権限で実行する]を指定していない場合、ジョブの実行ユーザはローカルシステムアカウントに変更となります。実行するジョブがローカルシステムアカウントで実行可能か確認してください。

[対処方法]

サービスのスタートアップアカウントをローカルシステムアカウントから変更したい場合は、“Systemwalker Operation Manager 導入ガイド”の“スタートアップアカウントを変更する”を参照してください。

ACLの非互換項目

- 拡張ユーザ管理機能が有効の場合は、Systemwalker共通ユーザー管理機能を利用できません。【UNIX版】

[対処方法]

mpsetusermode コマンド(-s off オプション)で拡張ユーザ管理機能を無効に変更してください。

mpusermode コマンドで、現在の拡張ユーザ管理機能が有効となっているか無効となっているかを表示できます。

- pwchangeo パスワード変更コマンド【Windows版】が使用できなくなりました。

[対処方法]

なし

- V13.4.1では、“Systemwalker Operation Managerへのログイン時”および“プロジェクトへのアクセス権を登録/変更/削除時”のクライアントからサーバへの通信における、サーバのタイムアウト処理が変更になりました。【Solaris版】

V13.4.0以前のバージョンでは、下記a.の場合だけであったのに加えて、V13.4.1では、b.の場合もクライアントとサーバ間の通信が切断されます。

a. サーバへデータがまったく到達せずに、一定時間(タイムアウト時間)が経過した場合

b. データの一部がサーバに到達したあと、一定時間(タイムアウト時間)データがサーバに到達しない場合

[対処方法]

なし

通常は、本変更による影響はありません。

ただし、プロジェクトへのアクセス権設定の以下の操作で、[アクセス権]を選択してから[アクセス権情報]ウィンドウが表示されるまでに、90秒以上要する環境では、システム環境の見直しをしてください。

- [Systemwalker Operation Manager]ウィンドウの業務選択ウィンドウで、任意のプロジェクトを選択し、[セキュリティ]メニュー-[アクセス権]を選択し、[アクセス権情報]ウィンドウを表示する

ジョブスケジューラについての非互換項目

- createsubsystemコマンドのオプションに、サービスのログオンアカウント名を指定する必要がなくなりました。【Windows版】
- 終了処理ジョブネットの登録先プロジェクトの条件が、ジョブスケジューラサービスのログオンアカウントに指定されているユーザ名と同じ名前のプロジェクトから、プロジェクト名が“SYSTEM”のプロジェクトに変更されました。【Windows版】

[対処方法]

同一のサブシステムにプロジェクト名が“SYSTEM”のプロジェクトを登録し、ジョブネットの複写機能、コピー機能、または、jobschsetnetコマンドの-ncopオプションを使用して、終了処理ジョブネットをプロジェクト名が“SYSTEM”のプロジェクトに複写してください。ジョブネットを複写した後、複写元のジョブネットは削除してください。

- 起動日雛形情報のファイル名が、“db_calendar.default”から“db_calendar_ex.default”に変更されました。

[対処方法]

起動日雛形情報のファイルを利用している場合は、新しいファイル名で参照するよう変更してください。

- jobschprint -aコマンドの出力結果に、以下の項目が追加されました。

[追加項目]

<Schedule Pattern Mode>: AND

Offset Holiday: OFF

[対処方法]

なし

ジョブ実行制御の非互換項目

- Systemwalker共通ユーザー管理機能を利用して、ログインしたユーザーIDがSystemwalker共通ユーザーであった場合、Systemwalker Operation Managerクライアントにて業務選択ウィンドウの[ジョブ]および[キュー]を選択すると、ユーザーID・パスワードを指定する[接続先ホストのパスワード入力]ウィンドウが表示されます。このウィンドウでOSのユーザを指定して認証すると、指定したユーザーIDが所有するジョブの情報にアクセスできます。

なお、[接続先ホストのパスワード入力]ウィンドウで指定したユーザーIDがOSの管理者ユーザであったとしても、[ジョブ状態表示/操作]ウィンドウまたは[キュー状態表示/操作]ウィンドウにおける監視と操作は一般ユーザの権限の範囲となります。

[対処方法]

なし

また、一度指定したユーザーID・パスワードはクライアントのログアウト時まで再利用されます。

Systemwalker共通ユーザー管理機能を利用する場合であったとしても、管理者ユーザでログインしていた場合、この認証は求められません。[ジョブ状態表示/操作]ウィンドウまたは[キュー状態表示/操作]ウィンドウは、管理者権限で監視/操作できます。

- ジョブ実行制御サービスのスタートアップアカウントが、ローカルシステムアカウントに変更になりました。そのため、[運用情報の定義]ウィンドウ [利用機能]シートで[ジョブを所有者の権限で実行する]が指定されていない場合、ジョブ実行制御のスタートアップアカウント(ローカルシステムアカウント)の権限でジョブが実行されます。

必要に応じて対処方法を実施してください。

[対処方法]

ジョブ実行制御サービスのスタートアップアカウントをV13.4.0/V13.4.1にバージョンアップする前の版で設定されていたスタートアップアカウントに変更します。



マスタスケジュール管理の非互換項目

- 以下の条件にすべて該当している場合、過去の運用日の持ち越しジョブネットが起動するようになりました。
 - [時刻起動](単一起動)である
 - 待ち合わせるメッセージ事象がある
 - [電源未投入時の処置として電源投入時に起動]をチェックしている
 - [起動時刻の到来を待つ]をチェックしていない

[対処方法]

なし

- stemregserviceコマンドのオプションに、サービスのログオンアカウント名を指定する必要がなくなりました。【Windows版】

クライアント機能についての非互換項目

- クライアント機能をインストール/アンインストールする場合、およびクライアント機能を利用する場合に、.NET Frameworkが必要となりました。

.NET Frameworkのインストール方法については、“Systemwalker Operation Manager 導入ガイド”の“インストール前の注意事項”の“.NET Frameworkのインストール/アンインストールについて”を参照してください。

[対処方法]

なし

- [起動日雛形情報の選択]ウィンドウの非互換項目

[起動日雛形情報の選択]ウィンドウから[新規作成]ボタンまたは[開く]ボタンで[起動日雛形情報]ウィンドウを開いた場合、[起動日雛形情報の選択]ウィンドウが自動的に閉じられます。

[対処方法]

なし

- 以下のクライアント機能のグループおよびジョブネットおよびジョブの操作確認が初期の状態でも有効になりました。

- Systemwalker Operation Managerクライアント
- 複数サーバ監視クライアント
- マスタスケジュール管理状況監視クライアント

なおアップグレードインストールした場合、旧版で設定済みの内容が継承されます。

[対処方法]

操作確認を無効にするために以下のウィンドウで設定を調整します。

- Systemwalker Operation Managerクライアントおよびマスタスケジュール管理状況監視クライアントの場合
 1. Systemwalker Operation Managerクライアントの[ツール]—[操作確認の設定]メニューを選びます。
 2. [操作確認の設定]ウィンドウで設定を調整します。
- 複数サーバ監視クライアントの場合
 1. ジョブネット一括管理ウィンドウの[オプション]—[操作確認の設定]メニューを選択します。
 2. [操作確認の設定]ウィンドウで操作確認の設定を調整します。

Systemwalker Centric Managerと連携する場合の非互換項目

- V13.4.0以降のSystemwalker Centric Managerと連携して異常終了したジョブネットの[ジョブネットの監視]ウィンドウを直接表示させる場合、表示される画面がWebコンソールの[ジョブネット監視]ウィンドウに変更になりました。

ただし、WindowsにログオンしているユーザでSystemwalkerコンソールにログインしていた場合、表示される画面はSystemwalkerコンソールと同じWindowsにインストールされているOperation Managerクライアント機能の[ジョブネットの監視]ウィンドウになります。

[対処方法]

なし

- Systemwalker Centric Managerと連携してOperation ManagerのWebコンソールまたはSystemwalker Operation Managerクライアントを起動させる場合、これら呼び出す前にSystemwalker Operation Managerの共通サービス(JMSRV)のポート番号を利用する処理が追加されています。

ポート番号については、“Systemwalker Operation Manager 導入ガイド”を参照してください。

[対処方法]

なし

Webブラウザから使用する場合の非互換項目

- カレンダ登録情報の参照が、Webブラウザ(Webコンソール)からできなくなりました。

[対処方法]

カレンダ登録情報を参照するには、[Systemwalker Operation Manager]ウィンドウを利用してください。

- 従来のWeb連携機能が、Webコンソールに変更になったことにより、Web連携機能のプロセス“omcgisv.exe”が存在しなくなりました。

[対処方法]

なし

メッセージについての非互換項目

- 以下のメッセージ本文中のオプション表記が変更になりました。

— MpJobsch: ERROR: 0004

— MpJobsch: ERROR: 0313

— MpJobsch: ERROR: 0393

— MpJobsch: ERROR: 0394

— MpJobsch: 情報: 1004

— MpJobsch: 情報: 1313

— MpJobsch: 情報: 1393

— MpJobsch: 情報: 1394

－ MpJobsch: 情報: 1014

[対処方法]

メッセージ本文をアプリケーションプログラムや監視プログラムなどで利用している場合は、新しいメッセージ本文を認識するように変更してください。

変更されたメッセージの詳細は、“Systemwalker Operation Manager メッセージ集”を参照してください。

インストール機能についての非互換項目

- ・ 特定条件において、インストール後にシステムの再起動が不要となり、インストール完了時に自動的に Systemwalker Operation Manager が起動されるようになりました。

以下のどれかの条件に当てはまる場合は、従来どおりシステムの再起動が必要となります。

- － Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEでサービスパックが適用されていない場合
- － Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEよりも前のOSの場合
- － Systemwalker Centric Managerがインストールされている場合
- － 新規インストールでない場合
- － Microsoft Visual C++ 2005 Redistributable パッケージがインストールされており、製品がバンドルしているバージョンより古く再起動が必要な条件に一致した場合

[対処方法]

なし

2.5 V13.4.0/V13.4.1からV13.6.0への移行

Systemwalker Operation Manager V13.4.0/V13.4.1からSystemwalker Operation Manager V13.6.0へ移行する場合の非互換項目を示します。

2.5.1 非互換項目

V13.4.0/V13.4.1からSystemwalker Operation Manager V13.6.0へ移行する場合の非互換項目について説明します。

ジョブ実行制御についての非互換項目

JCLのfile文に指定されたアクセス名について、文字種のチェックを行うようになりました。

アクセス名に含まれる文字は、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 半角英数字および “_” (半角アンダーバー)のみで構成されている
- ・ 先頭の1文字目は半角数字でない

[対処方法]

上記の条件を満たさないアクセス名を指定している場合は、変更してください。

監視ホストの定義ファイルについての非互換項目

監視ホストの定義ファイルのファイル名およびファイルの拡張子に変更になりました。

| 変更前 | 変更後 |
|---------------|------------------|
| monitor_hosts | monitor_hosts_ex |
| *.mhs | *.mhz |

[対処方法]

上記のファイルを利用している場合は、新しいファイル名で参照するよう変更してください。

カレンダー反映先ホスト定義ファイル内のIPアドレス指定時の最大長の変更

クラスタ運用時に、カレンダーの自動反映機能が有効の状態では、カレンダーの変更を行ったときに、カレンダー情報を反映させるホストを定義するファイル（ファイルカレンダー反映先ホスト定義ファイル “calcpghost.def”）のIPアドレス指定の場合の最大長が拡張されました。

| 変更前のIPアドレス最大長 | 変更後のIPアドレス最大長 |
|---------------|---------------|
| 15バイト | 45バイト |

[対処方法]

なし

保守情報収集ツールについて非互換項目

- ・ 圧縮後のファイルが以下のように変更されました。

【V13.4.1以前】

圧縮後のファイルは、「.exe」です。

【V13.6.0以降】

圧縮後のファイルは、「.cab」です。

- ・ [情報一覧/再圧縮]タブがなくなりました。
- ・ [採取]タブの[コメント]欄がなくなりました。

[対処方法]

なし

SAP ERPジョブ連携についての非互換項目

SAP ERPシステムおよびSAP ERPシステムとのジョブ連携を表現する際に使用していた “SAP R/3” および “R/3” の用語が、“SAP ERP” に変更になりました。

これに伴い、以下が変更になりました。

- ・ ジョブアイコンイメージ

| 変更前 | 変更後 |
|---|---|
|  |  |

- ・ [ジョブ一覧]ウィンドウの[種類]の表記
- ・ SAP ERPジョブを選択した場合の[登録ジョブ]ウィンドウに表示される[コメント]のデフォルト内容
- ・ アイコンのツールチップ表記

| 変更前 | 変更後 |
|-----|---------|
| R/3 | SAP ERP |

[対処方法]

なし

なお、以下については、変更ありません。

- jobschprint -i(-l)の“job Icon”で出力される表示内容：“R/3”
- ジョブ制御文の“jobicon(アイコン種別)”で指定するパラメタ：“SPR3”

メッセージについての非互換項目

- 以下のメッセージ本文において、“monitor_hosts”が“monitor_hosts_ex”に変更になりました。
 - ERROR: Failure in getting tree data for monitor_hosts.
 - ERROR: get tree data for monitor_hosts.
 - ERROR: monitor_hosts file access error
 - ERROR: monitor_hosts file open error
 - monitor_hosts data get error.

[対処方法]

メッセージ本文をアプリケーションプログラムや監視プログラムなどで利用している場合は、新しいメッセージ本文を認識するように変更してください。

- 以下のメッセージ内で表示されるファイル名が、“monitor_hosts”から“monitor_hosts_ex”に変更になりました。
 - MpJobsch: WARNING: 0279
 - MpJobsch: 警告: 4279

[対処方法]

メッセージ本文をアプリケーションプログラムや監視プログラムなどで利用している場合は、新しいメッセージ本文を認識するように変更してください。

メッセージ本文については、“Systemwalker Operation Manager メッセージ集”を参照してください。

2.6 V13.6.0からV13.6.1への移行

Systemwalker Operation Manager V13.6.0からSystemwalker Operation Manager V13.6.1へ移行する場合の非互換項目を示します。

2.6.1 非互換項目

V13.6.0からSystemwalker Operation Manager V13.6.1へ移行する場合の非互換項目について説明します。

Windowsサーバ/クライアントの表示についての非互換項目

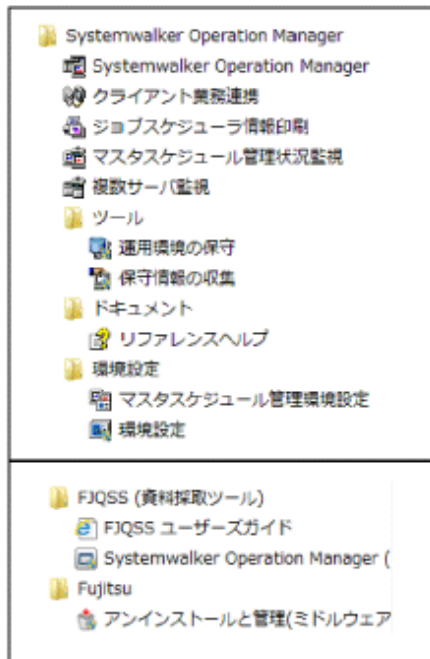
下記の場合に、Systemwalker Operation Managerのインストールにより登録される[スタート]メニュー([スタート]画面)の構成が変更になりました。

- Windows Server 2008またはWindows(R) 7以前のOSから、Windows Server 2012またはWindows(R) 8以降にアップグレードした場合

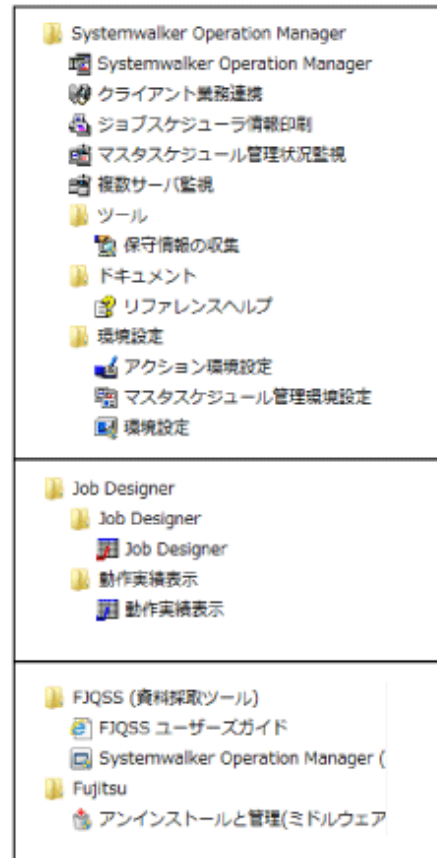
なお、各メニューに表示されるアイコンイメージおよび呼び出し名称に変更はありません。

アップグレード前のメニュー構成

Windows Server 2008における[スタート]メニュー
(インストール種別が[サーバ]の場合)



Windows(R) 7における[スタート]メニュー
(インストール種別が[クライアント]の場合)



アップグレード後のメニュー構成

Windows Server 2012における[スタート]/[アプリ]画面
 (インストール種別が[サーバ]の場合)

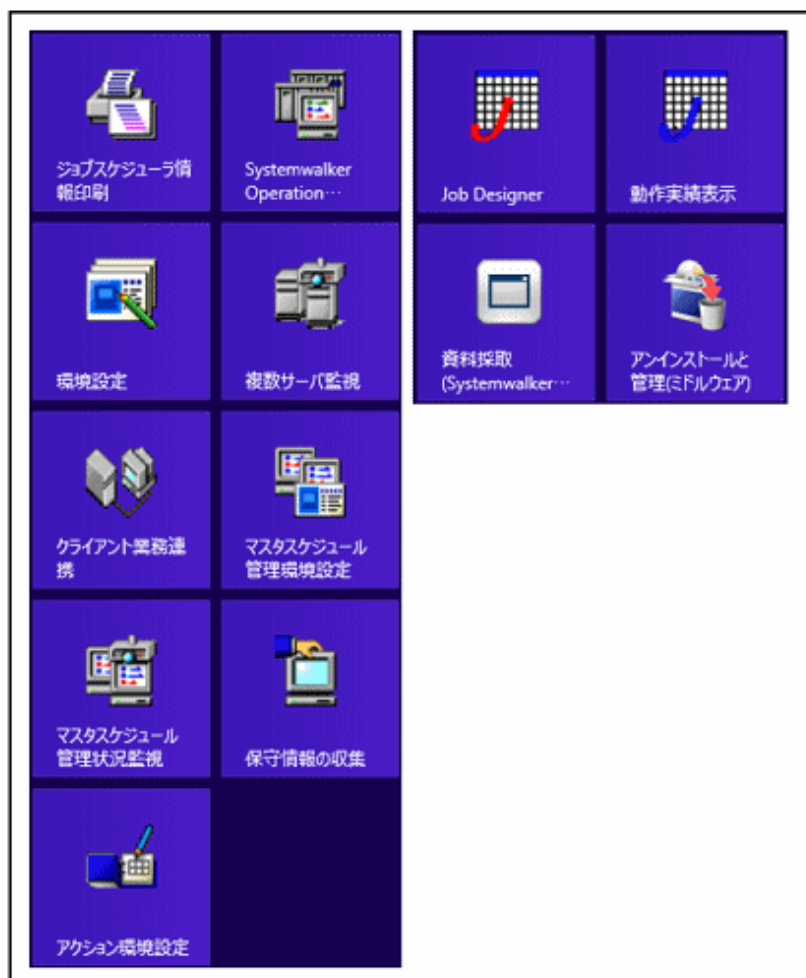
[スタート]画面

[アプリ]画面



Windows(R) 8.1における[スタート]画面
(インストール種別が[クライアント]の場合)

[スタート]画面



Windows(R) 8.1における[アプリ]画面
(インストール種別が[クライアント]の場合)

[アプリ]画面



[対処方法]

なし

参考

Windows Server 2012およびWindows(R) 8.1の[スタート]画面のカスタマイズについて

- ・ [スタート]画面でアイコンをドラッグアンドドロップすることで任意にグループ分けができます。
- ・ [スタート]画面で、[Ctrl]キーを押しながら下向きホイール操作で、スタート画面を縮小化できます。縮小化すると、アイコンのグループを選択してグループ名を変更(命名)することができます。

また、[スタート]画面のショートカットがどの製品のものを確認するためには、対象のショートカットを右クリックし、画面下部に表示されるメニューから[ファイルの場所を開く]を選択してください。表示されるエクスプローラーから、製品名を確認することができます。

2.7 V13.6.1からV13.7.0への移行

Systemwalker Operation Manager V13.6.1からSystemwalker Operation Manager V13.7.0へ移行する場合の非互換項目を示します。

2.7.1 非互換項目

V13.6.1からSystemwalker Operation Manager V13.7.0へ移行する場合の非互換項目について説明します。

デーモン一括起動カスタマイズ用ファイルの変更【UNIX版】

デーモン一括起動カスタマイズ用ファイルの内容が変更になりました。

具体的には、最初に記載されていた通信基盤機能を開始するコマンド行が削除され、“DAEMONxx(Lo)”に記載されている数字“xx”が変更されています。

デーモン一括起動カスタマイズ用ファイルは、以下に格納されています。

```
/etc/opt/FJSVftlo/daemon/custom/rc3.ini
```

[対処方法]

なし

インストール時の非互換項目【Windows版】

- ・ インストールディレクトリとしてサポートされていない下記いずれかの半角記号、半角カナ、または半角スペースを入力した時の動作が変更されています。

```
!#$%&'()*+,-./:;<=>?@[^_`{|}~。[ ]、・ファイエオヤヨツ・アイエオカキクコサシセ/チツテトナニホハヒフヘホマミムメモヤユヨリルロヅ°
```

[変更前]

インストール処理が継続されます。

[変更後]

インストール処理が中断し、以下のエラーメッセージが表示されます。

```
インストール先ディレクトリには、英数字以外の文字は指定できません。
```

[対処方法]

エラーダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックすると、インストール先の再入力が可能となります。インストール先ディレクトリを正しく指定することで、インストール処理が継続されます。

電源制御についての非互換項目

- ・ 使用できる電源制御ソフトウェアから、以下が削除されました。
 - － Power MANagement for WindowsまたはPMAN/L (富士通製)

[対処方法]

旧バージョンの定義を移行した場合、[電源制御スケジュール]ダイアログボックス－[電源制御]シートで選択されている電源制御は“その他 (Systemwalker対応電源制御ソフトウェア)”に変更されます。

ジョブスケジューラについての非互換項目

- ・ ジョブアイコンより、以下が削除されました。
 - － GLOVIA-Cビジネスオブジェクト
 - － GLOVIA-Cジョブ
 - － リモートアクセス制御(接続)ジョブ
 - － リモートアクセス制御(切断)ジョブ

[対処方法]

旧バージョンの定義を移行した場合、上記ジョブアイコンはそのまま移行されます。

ジョブ実行制御についての非互換項目

- 旧バージョンからアップグレードインストールする場合のジョブプロセスの起動モードのデフォルト値が、ジョブオブジェクトモードになりました。

アップグレード前のジョブプロセスの起動モードがトレースモードであった場合、トレースモードからジョブオブジェクトモードに変更されます。また、トレースモードからジョブオブジェクトモードに変更されることで、以下の機能が利用できなくなります。

－ mjptreeコマンド

[対処方法]

[運用情報の定義]ウィンドウの[利用機能]シートで、[ジョブオブジェクトモードを有効にする]チェックボックスのチェックをはずすことで、トレースモードに戻すことができます。また、トレースモードに戻すことで、mjptreeコマンドも利用できるようになります。

Webコンソールについての非互換項目

- Webコンソール機能で使用するポート番号の初期値が変更されました。

これにより、Webコンソール接続時に指定するURLが変更となっています。

【V13.6.1以前】

Webコンソールで使用するポート番号の初期値は、18443です。

WWWブラウザで入力するURL:

```
http://Systemwalker Operation Managerサーバのホスト名:18443/  
Systemwalker-omgr/login.op
```

【V13.7.0以降】

Webコンソールで使用するポート番号の初期値は、9900です。

WWWブラウザで入力するURL:

```
http://Systemwalker Operation Managerサーバのホスト名:9900/  
Systemwalker-omgr/login.op
```

[対処方法]

ポート番号がすでに使用されている場合は、未使用のポート番号に変更してください。

- Webコンソール機能で使用するポート番号を変更する際の手順が変わりました。

Webコンソールで使用するポート番号を変更するためには、変更前後でSystemwalker Operation Managerの停止/起動が必要となります。

Webコンソールのポート番号を変更する手順については、“Systemwalker Operation Manager 導入ガイド”の“ポート番号の変更方法”を参照してください。

[対処方法]

なし

- Webコンソール上で、メニューやタブを選択し、サーバ上で処理が実行されている間に表示されるマウスポインターのアイコンの動作が変更されました。

[変更前]

砂時計になります。

[変更後]

矢印のままです。

[対処方法]

「Waiting」の画像情報表示によって、処理実行中を判断してください。

Job Designerについての非互換項目

- Job DesignerのEntryシートが削除されました。

[対処方法]

一括編集シートを利用してください。

Entryシートを利用して編集した情報をCSV出力した場合は、一括編集シートでCSV入力することができます。CSV入力した情報は一括編集シートで編集することができます。

メッセージについての非互換項目

- 以下のソース名のメッセージが出力されなくなりました。
 - F3FMshs
- 以下のソース名のメッセージが出力されるようになりました。
 - AHS
 - F3FMwsc_OMGR

[対処方法]

メッセージ本文をアプリケーションプログラムや監視プログラムなどで利用している場合は、新しいメッセージ本文を認識するように変更してください。

2.8 V13.7.0からV13.8.0への移行

Systemwalker Operation Manager V13.7.0からSystemwalker Operation Manager V13.8.0へ移行する場合の非互換項目を示します。

2.8.1 非互換項目

V13.7.0からSystemwalker Operation Manager V13.8.0へ移行する場合の非互換項目について説明します。

Red Hat Enterprise Linux 7におけるシャットダウン時のデーモン停止についての非互換項目【Linux版】

シャットダウン時のデーモン停止について、以下の非互換があります。

【V13.7.0以前】

オペレーティングシステムの停止時には、Systemwalker Operation Managerのデーモンはすべて正常に自動停止されます。

【V13.8.0以降】

Red Hat Enterprise Linux 7では、オペレーティングシステムの停止時にデーモンが自動停止する設定にしても、以下の場合にオペレーティングシステムを停止または再起動する時には、事前にpoperationmgr(サービス/デーモン停止コマンド)を手動で実行し、Systemwalker Operation Managerのデーモンを停止してください。

- poperationmgr/soperationmgrコマンドなどにより手動でデーモンを再起動した場合
- 環境設定画面のデーモン制御によってデーモンを再起動した場合
- バックアップコマンドを実行した場合

- ・ ポリシー配付を“すぐに適用する”で配付した場合

ジョブスケジューラについての非互換項目

- ・ SE版では、1プロジェクト内のジョブネットの登録数の上限値は255となっています。
従来、可変パラメタとサフィックスを利用した複写起動の複写先ジョブネットについても、ジョブネットの登録数の対象に含まれていましたが、今回対象外となりました。

[対処方法]

なし

- ・ [ジョブネットの新規作成/変更]ウィンドウの[カテゴリ選択]にある[判定ジョブ]カテゴリから、[時刻待ち合わせ]ジョブがなくなり、[待ち合わせジョブ]カテゴリに移動しました。

[対処方法]

[時刻待ち合わせ]ジョブを使用する場合は、[全て表示]/[基本ジョブ]/[待ち合わせジョブ]のいずれかのカテゴリを利用してください。

- ・ “ファイル状態確認”ジョブの名称が“ファイル待ち合わせ”に変更されました。

また、コマンドアシスタントを利用してファイル待ち合わせジョブを新規作成する場合の[登録-ジョブ]ウィンドウにおける[監視イベント]の指定方法が変更されました。chkfileコマンドやjobschchkfileコマンドの、-wait、-delete、-updateに相当する設定項目がなくなりました。

ただし、以下の場合は、従来と同じ[登録-ジョブ]ウィンドウが表示されます。

- － 旧バージョンで登録済みのファイル状態確認ジョブを移行した場合
- － コマンドアシスタントを無効にしてchkfileコマンドやjobschchkfileコマンドの-wait、-delete、-updateを指定したジョブを登録後、コマンドアシスタントを有効にして[登録-ジョブ]ウィンドウを表示した場合（※）
- － 旧バージョンのサーバにクライアントを接続した場合

[対処方法]

ありません。

ただし、上記（※）の手順に従って、従来と同じ[登録-ジョブ]ウィンドウを表示したり、設定項目を変更したりすることが可能です。

- ・ [ジョブネットの新規作成]ウィンドウのジョブのカテゴリ選択域で“基本ジョブ”を選択した場合に、アイコン選択域に表示されるアイコンの種類が変更になりました。

| 変更前 | 変更後 |
|-----------|--------------|
| コマンド実行 | コマンド実行 |
| メッセージ事象発生 | メッセージ事象発生 |
| サービス開始 | ファイル存在判定 |
| サービス停止 | ジョブネット変数判定 |
| サービス状態確認 | サービス開始 |
| ファイル状態確認 | サービス停止 |
| バックアップ連携 | サービス状態確認 |
| ログファイル解析 | ファイル待ち合わせ |
| 時刻待ち合わせ | メッセージ事象待ち合わせ |
| | バックアップ連携 |
| | ログファイル解析 |
| | 時刻待ち合わせ |
| | 指定時間待ち合わせ |

- [Systemwalker Operation Manager インポート]ウィンドウおよび[Systemwalker Operation Manager エクスポート]ウィンドウにおいて、[CSVファイルを一括転送して処理を高速化する]がチェックされた状態が初期値となります。そのため、[CSVファイルを一括転送して処理を高速化する]がチェックされていることにより、インポート/エクスポートの途中でキャンセルができなくなります。

[対処方法]

従来通りインポート/エクスポートの途中でキャンセルをしたい場合には、[CSVファイルを一括転送して処理を高速化する]のチェックを外してください。[CSVファイルを一括転送して処理を高速化する]がチェックされている場合、CSVファイル単位での途中キャンセルができなくなります。

- [監視-ジョブ]ウィンドウ-[前回履歴]シートにある[可変パラメタ]の項目は、[ジョブネット変数]に統合され、表示形式が変更されました。

[対処方法]

なし

- [ジョブ定義変数]ウィンドウで設定できるジョブ定義変数値の最大長が200バイトから512バイトに拡張されました。

[対処方法]

なし

- [登録-ジョブ]ウィンドウ-[詳細情報]シートにある[環境変数]の変数値に、ジョブ定義変数、可変パラメタ、ジョブネット変数が利用可能になりました。これにより、環境変数の変数値に“@変数名@”形式の文字列が存在し、[変数名]と同じジョブ定義変数、可変パラメタ、またはジョブネット変数が存在した場合、“@変数名@”の部分が変数値に置き換えられて、ジョブが実行されます。

なお、変数名が設定されていない“@変数名@”形式の文字列については、通常の文字列として扱われます。

[対処方法]

ジョブ定義変数や可変パラメタで使用する変数名を変更してください。

- [登録-ジョブ]ウィンドウの定義項目(*)にシステムが自動で設定するジョブネット変数(**)の変数名と同じ文字列が存在した場合、文字列はそれぞれ置き換えるための変数として扱われます。

*)対象となる[登録-ジョブ]ウィンドウの定義項目

- コマンド
- パラメタ
- ディレクトリ
- 依頼ホスト名
- キュー名
- 実行ユーザ名
- 標準出力ファイル名
- 標準エラー出力ファイル名
- [環境変数]の変数値

**)システムが自動で設定するジョブネット変数と置き換えられる内容

| 変数名 | 置き換えられる内容 |
|-------------------|------------|
| @.PROJECT@ | プロジェクト名 |
| @.JOBNET@ | ジョブネット名 |
| @.JOBNAME@ | ジョブ名 |
| @.SUB_SYSTEM@ | サブシステム番号 |
| @.MASTER_PROJECT@ | マスタプロジェクト名 |

- Systemwalker Operation Managerクライアント上で[コピー][貼り付け]、および[再利用]操作でジョブネットの複写をした場合の複写先ジョブネットの状態が変更となりました。

[V13.7.0以前]

実行待ち

[V13.8.0以降]

無効状態

[対処方法]

実行待ち状態にする場合は、複写先ジョブネットを[無効解除]してください。

- [ジョブの履歴]ウィンドウに表示されるメッセージのうち、以下のメッセージに対する終了コードの表示が追加/変更されました。

passed (ジョブがパス状態になりました)

終了コード“0”、“248”または“249”が表示されるようになりました。

cancel end (強制終了しました)

従来の終了コード“256”に加え、“248”または“249”が表示されるようになりました。

[対処方法]

なし

- chkfile/jobschkfileコマンド、jobschchecklogコマンド、jobschchecktimeコマンドの正常終了時に、各コマンドの実行結果を標準出力に出力するようになりました。

[対処方法]

なし

- jobschprint -rコマンドで出力される制御文の種類が追加されました。

[対処方法]

出力した制御文をV13.7.0以前のバージョンで利用する場合、追加された制御文情報を削除して利用してください。

[追加された制御文情報]

ジョブネット制御文： copystart, jobnetsavenumber

ジョブ制御文： netvar_prefix

ジョブ実行制御についての非互換項目

- ローカルジョブまたは分散実行ジョブの場合に、投入サーバに存在しないユーザを実行ユーザとするジョブは、実行時にエラーになるのではなく、投入時にエラーになるようになりました。【UNIX版】

[対処方法]

なし

- 一般ユーザの権限で動作しているプロセスの数が、Linuxカーネルの制限値に達していた状況において、そのユーザがジョブを実行した場合の該当ジョブの動作が以下のように変更になりました。【Linux版】

[V13.7.0以前]

スーパーユーザの権限で実行されます。

[V13.8.0以降]

ジョブは実行されず、コード=0x40000999で異常終了します。

[対処方法]

なし

- ジョブ実行履歴情報(日付.log)の書き込みに失敗した場合、書き込みに失敗した旨のメッセージ(下記)がイベントログに出力されるようになりました。【Windows版】

- MpMjes: 警告: 1646
- MpMjes: 警告: 1647
- MpMjes: 警告: 1648
- MpMjes: 警告: 1649
- MpMjes: エラー: 1650

メッセージ本文については、“Systemwalker Operation Manager メッセージ集”を参照してください。

[対処方法]

なし

Solaris環境における出力ファイルおよび作業ディレクトリの変更についての非互換項目【Solaris版】

- Solaris環境において、以下の出力ファイルの出力先が変更になりました。

- swcolinf 保守情報収集コマンドの出力ログファイル

[V13.7.0以前]

/tmp/swcolinf.log

[V13.8.0以降]

/var/tmp/swcolinf.log

- サイレントインストール時の出力ログファイル

[V13.7.0以前]

/tmp/swsilent.log

[V13.8.0以降]

/var/tmp/swsilent.log

- OMGRアンインストール時に失敗した際の出力ログファイル

[V13.7.0以前]

/tmp/systemwalker_swopeuninstall.log

[V13.8.0以降]

/var/tmp/systemwalker_swopeuninstall.log

[対処方法]

なし

- 業務連携機能のファイル圧縮/伸長処理で使用する作業ディレクトリが、/tmp(メモリ)から/var/tmp(ディスク)に変更になりました。

これにより、ファイルサイズ、ファイル数、マシン性能の条件によっては、サーバファイル圧縮/伸長ジョブ実行時の性能が劣化する場合があります。業務連携機能のファイル圧縮/伸長を利用する場合には、十分に性能検証を行ってください。

[対処方法]

なし

メッセージについての非互換項目

- 以下のメッセージの本文が変更されました。

- MpJobsch: ERROR: 0101
- MpJobsch: ERROR: 0316
- MpJobsch: ERROR: 0397
- MpJobsch: 情報: 1101
- MpJobsch: 情報: 1309
- MpJobsch: 情報: 1316

[対処方法]

メッセージ本文をアプリケーションプログラムや監視プログラムなどで利用している場合は、新しいメッセージ本文を認識するように変更してください。

メッセージ本文については、“Systemwalker Operation Manager メッセージ集”を参照してください。

2.9 V13.8.0からV13.9.0への移行

Systemwalker Operation Manager V13.8.0からSystemwalker Operation Manager V13.9.0へ移行する場合の非互換項目を示します。

2.9.1 非互換項目

mjsviewコマンドおよびジョブ実行制御の稼働実績情報ファイルについての非互換

mjsviewコマンドの実行結果およびジョブ実行制御の稼働実績情報ファイルに、依頼元や実行先のサブシステム番号が出力されるようになりました。

- 任意のサブシステム番号にネットワークジョブを投入した場合に、依頼元サーバのmjsviewコマンドの実行結果に実行先のサブシステム番号が出力されるようになりました。
- ネットワークジョブや分散実行ジョブを投入した場合に、実行サーバのmjsviewコマンドの実行結果に依頼元のサブシステム番号が出力されるようになりました。
- ジョブ実行制御の稼働実績情報ファイルのジョブレコードで、イベント種別が「ジョブ投入イベント」および「ジョブ終了イベント」の場合に、サブシステム番号が出力されるようになりました。

[対処方法]

なし

ジョブ実行制御についての非互換項目

ジョブ実行制御デーモンのPATH環境変数の変更により、ネットワークジョブの場合の投入先サーバにおいて、ジョブファイルを検索する対象のパスが変わりました。【UNIX版】

[対処方法]

[登録-ジョブ]ウィンドウの[コマンド]欄または[ディレクトリ]欄には、フルパスでパスを記載してください。

クライアント機能についての非互換項目

PG91113で修正されない制限を回避する方法として提供された、プロジェクト単位に分割して業務選択ツリーの表示・更新を行う機能について、クライアント動作環境ファイル(jobschr.ini)における設定値に対応する動作が変更になりました。

これにより、Systemwalker Operation Managerクライアントの業務選択ツリーで、同時に展開できるプロジェクトが1つだけになりました。

詳細は、“Systemwalker Operation Manager 運用ガイド”の“クライアントのレスポンス性能について”を参照してください。

[対処方法]

なし



メッセージについての非互換項目

以下のメッセージが出力されなくなりました。

- MpJobsch: 情報: 1254
- MpJobsch: ERROR: 0254

[対処方法]

なし

2.10 V13.9.0からV13.9.1への移行

Systemwalker Operation Manager V13.9.0からSystemwalker Operation Manager V13.9.1へ移行する場合の非互換項目を示します。

2.10.1 非互換項目

サイレントインストールについての非互換項目

- サイレントインストール時のエラーにより採取した保守資料の格納先通知方法について、以下の非互換があります。

【V13.9.0以前】

保守資料の格納先をメッセージボックスで通知します。

【V13.9.1以降】

保守資料の格納先をログに出力します。

- サイレントインストール時に行われるWebコンソール機能のセットアップ処理で、エラーが発生した場合に表示されるメッセージが変更となりました。【UNIX版】

【V13.9.0以前】

英語のメッセージが表示されます。

例) Web server setup failed.

【V13.9.1以降】

日本語のメッセージが表示されます。

例) Webサーバのセットアップに失敗しました。

変更後のメッセージは、通常の対話形式によるインストール時に表示されるメッセージと同一となります。メッセージについては、“Systemwalker Operation Manager メッセージ集”の“Webコンソールの出力メッセージ”を参照してください。

[対処方法]

メッセージ本文をアプリケーションプログラムや監視プログラムなどで利用している場合は、新しいメッセージ本文を認識するように変更してください。

ジョブスケジューラの非互換項目

- ジョブネットに登録されている時刻待ち合わせジョブ(jobschchecktimeコマンド)が、ジョブネットの起動予定日の待ち合わせ時刻を待ち合わせるようになりました。

[変更前]

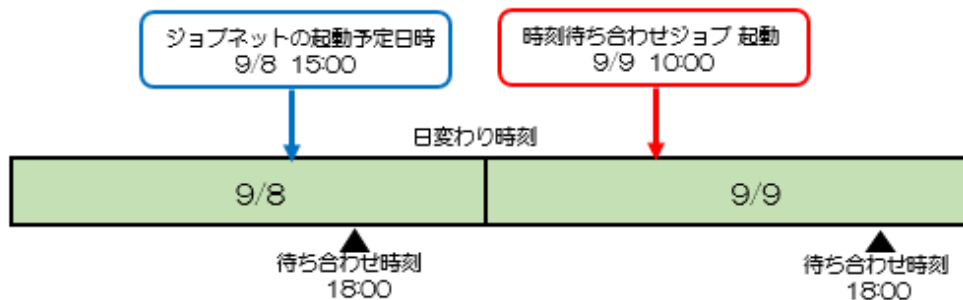
時刻待ち合わせジョブは、ジョブが起動された当日の待ち合わせ時刻を待ち合わせます。

[変更後]

時刻待ち合わせジョブは、ジョブネットの起動予定日の待ち合わせ時刻を待ち合わせます。

以下の場合を例に説明します。

- ジョブネットの起動予定日時：9/8 15:00
- 時刻待ち合わせジョブの待ち合わせ時刻：18:00
- 時刻待ち合わせジョブの起動日時：9/9 10:00



— [変更前]

日変わり時刻を超えると、待ち合わせ時刻は9/9の18:00になります。

上の例の場合、時刻待ち合わせジョブは、9/9の18:00まで待ち合わせます。

— [変更後]

日変わり時刻を超えても、待ち合わせ時刻はジョブネットの起動予定日時である9/8の18:00になります。

上の例の場合、時刻待ち合わせジョブは、9/8 18:00の待ち合わせ時刻を過ぎているのですぐに終了します。

[対処方法]

なし

- [ジョブの履歴]ウィンドウに表示されるジョブの起動日時や、[ジョブネットの履歴]ウィンドウに表示されるジョブの開始日時・終了日時について、大量にジョブネットが登録されている場合でも、より正確な時刻となるよう改善されました。

[変更前]

ジョブネットやジョブの起動、終了時刻などは、ジョブスケジューラが取得した日時を表示します。

[変更後]

ジョブネットの起動、終了時刻などはジョブスケジューラが、ジョブの起動、終了時刻などはジョブ実行制御が取得した日時を表示します。

[対処方法]

なし

GUIからのインポート/エクスポートの非互換項目

GUIからのインポート/エクスポートを行った場合の、以下の動作が変更されました。

- GUIからのジョブネット定義CSVファイルのインポート/エクスポートで出力されるエラーメッセージおよびメッセージダイアログが変更されました。
- インポートでは、ジョブネット定義CSVファイルの処理の途中でエラーがあった場合に、すべてのジョブネット定義CSVファイルのインポートを中止するようになりました。
- エクスポートでは、ジョブネットの定義情報はプロジェクト単位に一括で処理するため、その処理中にエラーになった場合は、エラーとなったプロジェクトのジョブネットの定義情報は出力されません。サブシステムを指定した場合は、エラーとならなかったプロジェクトのジョブネット定義情報は出力されます。
- エクスポート先に指定したディレクトリに同一ファイル名が存在した場合、上書きされるようになりました。

[対処方法]

Systemwalker Operation Manager V13.9.1以前の仕様で利用したい場合には、クライアント側の定義ファイル (Jobschr.ini) で切り替えることができます。詳細については、“Systemwalker Operation Manager 運用ガイド”の“GUIからインポート/エクスポートする(V13.9.1以前のサーバに接続した場合)”を参照してください。

Webコンソールについての非互換項目

Webコンソールで利用するポート番号がservicesファイルに記載されなくなりました。

【V13.9.0以前】

Webコンソールで利用するポート番号は、インストール時に自動でservicesファイルに記載されます。

【V13.9.1以降】

Webコンソールで利用するポート番号は、servicesファイルに記載されません。

なお、手動での追記は不要です。

[対処方法]

なし

メッセージについての非互換項目

- 以下の変更前のメッセージ本文が出力される場合のうち、セットアップ処理のタイムアウトが原因の場合、出力メッセージが下記のとおり変更となりました。

【V13.9.0以前】

Webサーバのセットアップに失敗しました。

【V13.9.1以降】

セットアップ処理がタイムアウトしたため、Webサーバのセットアップ処理をスキップします。Webサーバのセットアップが必要な場合、Systemwalker Operation Manager起動後にWebサーバセットアップコマンドで再度セットアップしてください。

[対処方法]

メッセージ本文をアプリケーションプログラムや監視プログラムなどで利用している場合は、新しいメッセージ本文を認識するように変更してください。なお、原因によっては、変更前のメッセージが出力される場合もあるため、注意してください。

メッセージ本文については、“Systemwalker Operation Manager メッセージ集”を参照してください。

2.11 V13.9.1からV16.0.0への移行

Systemwalker Operation Manager V13.9.1からSystemwalker Operation Manager V16.0.0へ移行する場合の非互換項目を示します。

2.11.1 非互換項目

アクセス権についての非互換項目

利用者制限の定義

新規インストールの場合に、利用者制限の定義(注)のデフォルトが変更されました。

注：

[Operation Manager共通パラメタの定義]ウィンドウで設定する、[swadminグループに含まれるユーザだけが、デマンドジョブの起動、ジョブ実行制御属性のジョブネット起動、およびジョブスケジューラのコマンド機能が利用できるように制限する]

【V13.9.1以前】

利用者制限の定義が無効(指定なし)の状態です。

【V16.0.0以降】

利用者制限の定義が有効(指定あり)の状態です。

[対処方法]

利用者制限の定義を変更してください。

利用者制限の定義については、“Systemwalker Operation Manager 導入ガイド”の“利用者制限の定義”を参照してください。

出口情報【Windows版】

出口プログラムのファイルおよび格納ディレクトリ(Systemwalkerインストールディレクトリ¥MpWalker.JM¥bin)へのアクセス権が、以下の操作の前後で変わります。

- ・ 旧版から今版へのアップグレードインストール
- ・ 利用者制限の定義の変更(無効→有効/有効→無効どちらも)

【V13.8.0以前】

権限は変更されません。

【V16.0.0以降】

出口プログラムファイル、格納ディレクトリともに、一般ユーザ/swadminの書き込み権がなくなります。

[対処方法]

出口プログラムの配置は、システム管理者(Administratorsグループに属するユーザ/スーパーユーザ)権限で実施してください。

ジョブスケジューラについての非互換項目

- ・ ジョブネット、ジョブの変更を行った場合、ジョブ、子ジョブネットおよびリンクジョブネットの動作が変更になりました。

【V13.9.1以前】

停止および無効状態が設定されていても、変更時に実行待ちの状態に変更されます。

【V16.0.0以降】

停止および無効状態が設定されている場合は、変更しても変更前の状態を保持します。

[対処方法]

なし

- [ジョブネットの管理]ウィンドウで、複写元のジョブネット(ジョブネット/親ジョブネット/子ジョブネット/リンクジョブネット)を表すアイコン([ジョブネット名称]カラムの先頭部分)が、通常のジョブネット(それぞれジョブネット/親ジョブネット/子ジョブネット/リンクジョブネット)アイコンと同一となる場合があります。複写起動となる契機に応じて、通常のジョブネットアイコンと同一となるジョブネットアイコンの種類が異なります。以下に示します。

[ジョブネットのプロパティ]ウィンドウで[複写起動する]が設定され、複写起動された場合

- 子ジョブネット(複写元)
- リンクジョブネット(複写元)

メッセージ事象発生により、複写起動(jobschmsgeventコマンドを-cオプション指定で実行)された場合

- ジョブネット(複写元)
- 親ジョブネット(複写元)
- 子ジョブネット(複写元)
- リンクジョブネット(複写元)

[対処方法]

なし

ジョブ実行制御についての非互換項目

- ネットワークジョブの運用において、データ送受信処理が無応答となった場合に、処理を中断するまでのタイムアウト時間(秒)が変更になります。【UNIX版】

【V13.9.1以前】

30秒

【V16.0.0以降】

60秒

[対処方法]

“Systemwalker Operation Manager トラブルシューティングガイド”の“ネットワークジョブの実行に失敗する(エラーメッセージ:MJS881Sが出力される)”を参照してください。

Webコンソールについての非互換項目

- Systemwalker Centric ManagerからWebコンソールを監視する場合に必要な設定が追加されました。
設定については、“Systemwalker Operation Manager 導入ガイド”の“異常終了したジョブネットの監視画面を直接表示させる場合”を参照してください。
- Systemwalker シングル・サインオンと連携してWebコンソールで監視する場合に必要な設定が追加されました。
設定については、“Systemwalker Operation Manager 導入ガイド”の“Systemwalker認証リポジトリを利用する場合の定義”を参照してください。
- ServerView Operations Managerと連携してWebコンソールで監視する場合に必要な設定が追加されました。
設定については、“Systemwalker Operation Manager 導入ガイド”の“ServerView Operations Managerと連携してシングル・サインオンを行う場合の定義”を参照してください。

- Webコンソールで利用するポート番号がservicesファイルに記載されなくなりました。【Solaris版/Windows版】

【V13.8.0以前】

Webコンソールで利用するポート番号は、インストール時に自動でservicesファイルに記載されます。

【V16.0.0以降】

Webコンソールで利用するポート番号は、servicesファイルに記載されません。

なお、手動での追記は不要です。

[対処方法]

なし

メッセージについての非互換項目

- 以下のメッセージの本文が変更されました。
 - MpJobsch: ERROR: 0101
 - MpJobsch: ERROR: 0316

[対処方法]

メッセージ本文をアプリケーションプログラムや監視プログラムなどで利用している場合は、新しいメッセージ本文を認識するように変更してください。

メッセージ本文については、“Systemwalker Operation Manager メッセージ集”を参照してください。

2.11.2 提供を停止した製品

V16.0.0で、以下のオプション製品の提供を停止しました。

- Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition Consolidation Option

2.12 V16.0.0からV16.0.1への移行

Systemwalker Operation Manager V16.0.0からSystemwalker Operation Manager V16.0.1へ移行する場合の非互換項目を示します。

2.12.1 非互換項目

Red Hat Enterprise Linux 7におけるシャットダウン時のデーモン停止についての非互換項目【Linux版】

シャットダウン時のデーモン停止について、以下の非互換があります。

【V13.8.0～V16.0.0】

Red Hat Enterprise Linux 7では、オペレーティングシステムの停止時にデーモンが自動停止する設定にしても、以下の場合にオペレーティングシステムを停止または再起動する時には、事前にpoperationmgr(サービス/デーモン停止コマンド)を手動で実行し、Systemwalker Operation Managerのデーモンを停止する必要があります。

- poperationmgr/soperationmgrコマンドなどにより手動でデーモンを再起動した場合
- 環境設定画面のデーモン制御によってデーモンを再起動した場合
- バックアップコマンドを実行した場合
- ポリシー配付を“すぐに適用する”で配付した場合

【V16.0.1以降】

オペレーティングシステムの停止時には、Systemwalker Operation Managerのデーモンはすべて正常に自動停止されます。

Systemwalker Operation Managerの起動処理についての非互換項目【Linux版】

Systemwalker Operation Managerの起動処理について、以下の非互換があります。

【V13.8.0～V16.0.0】

SysVinit互換制御で起動処理を行っています。

【V16.0.1以降】

systemd制御で起動処理を行っています。

メッセージについての非互換項目

以下のソース名のメッセージが出力されるようになりました。

- PCMI

[対処方法]

なし

2.13 V16.0.1からV17.0.0への移行

Systemwalker Operation Manager V16.0.1からSystemwalker Operation Manager V17.0.0へ移行する場合の非互換項目を示します。

2.13.1 非互換項目

削除された機能

下記の機能が削除されました。

- ServerView Operations Managerと連携したシングル・サインオン機能
- Systemwalker認証リポジトリを利用したユーザー管理

併せて、以下の機能が使用できなくなりました。

- Systemwalker共通ユーザー管理
- Systemwalkerシングル・サインオン

旧版で、プロジェクトのアクセス権設定に、Systemwalker認証リポジトリ上のユーザー／グループの定義を利用していた場合、今版へ移行時に、該当の定義が削除されて登録されます。下記いずれの移行方法によっても、同様です。

- アップグレードインストール
- ポリシー情報の配付
- swtransコマンド

電源制御についての非互換項目

Solaris版およびLinux版において、電源制御装置と連携した電源制御機能が利用できなくなりました。

[対処方法]

なし

[Systemwalker Operation Manager 配付先[ログイン]]ウィンドウについての非互換項目

配付先/ログインユーザの指定について、チェックを外したときの設定が、以下のように変更されました。

- [配付先を指定する]のチェックを外した場合

【V16.0.1以前のクライアント】

【Windows版】

デスクトップにログインしているサーバ(Systemwalker Operation Manager 環境設定クライアントを起動しているサーバ)を設定します。

【UNIX版】

省略できません。

【V17.0.0以降のクライアント】

Systemwalker Operation Manager 環境設定クライアントに接続しているサーバを設定します。

- [ログインユーザを指定する]のチェックを外した場合

【V16.0.1以前のクライアント】

【Windows版】

デスクトップにログインしているユーザID(Systemwalker Operation Manager 環境設定クライアントを起動しているユーザID)を設定します。

【UNIX版】

省略できません。

【V17.0.0以降のクライアント】

Systemwalker Operation Manager 環境設定クライアントに接続しているユーザIDを設定します。

ジョブスケジューラについての非互換項目

- 複写先ジョブネットの子ジョブネットに対して、[操作]メニューの[停止]、[停止解除]、[無効]、[無効解除]が行えるようになりました。

[対処方法]

なし

- 複写先ジョブネットの子ジョブネットに対して、jobschcontrolコマンドの pause、continue、disable、enableオプションの操作が行えるようになりました。

[対処方法]

なし

- 複写先ジョブネットの子ジョブネットに対して、ジョブネット操作API、ジョブネット操作API/EE、ジョブネット操作(起動パラメタ指定)API、ジョブネット操作(起動パラメタ指定)API/EEによる、pause、continue、disable、enableオプションの操作が行えるようになりました。

[対処方法]

なし

ジョブ実行制御についての非互換項目

- [運用情報の定義]ウィンドウの[利用機能]シートにおいて、[ジョブオブジェクトモードを有効にする]の設定が行えなくなりました。【Windows版】

ジョブ実行制御属性のジョブは、必ずジョブオブジェクトモードで動作するようになります。

また、これにより下記のコマンドおよびコマンドオプションが利用できなくなりました。

– mjpgtreeコマンド

– qsub -ntオプション

[対処方法]

なし

- ライブラリおよびヘッダファイルが以下のように変更されました。【Linux 64bit用】

【V16.0.1以前】

LIB:
libmjes.so
INCLUDE:
mjesapi.h

【V17.0.0以降】

LIB:
libmjes_x64.so
INCLUDE:
mjesapi_x64.h

- ライブラリおよびヘッダファイルが以下のように変更されました。【Solaris 64bit用】

【V16.0.1以前】

LIB:
libmjes.so
INCLUDE:
mjesapi.h

【V17.0.0以降】

LIB:
libmjes_64.so
INCLUDE:
mjesapi_64.h

Systemwalker Centric Managerと連携する場合の非互換項目

Systemwalker Operation Managerのクライアント機能がインストールされている条件下において、Systemwalker Centric Managerの監視画面から、異常終了したジョブネットの監視画面を直接表示させる操作によって、起動するSystemwalker Operation Managerの画面が変更になりました。

【V13.4.0～V16.0.1】

Webコンソールのジョブネット監視画面が表示されます。

【V17.0.0以降】

Windowsクライアントの[ジョブネットの監視]ウィンドウが表示されます。

[対処方法]

mpjobweb.iniファイルの設定をすることで、Webコンソールのジョブネット監視画面を表示させることができます。

設定方法の詳細は、“Systemwalker Operation Manager 導入ガイド”の“異常終了したジョブネットの監視画面を直接表示させる場合”を参照してください。

Webコンソール/Web APIの暗号化通信(HTTPS通信)の定義についての非互換項目

暗号化通信の定義で使用する証明書/鍵管理環境が変更されました。

【V16.0.1以前】

SMEE、SCLRライブラリを利用します。

【V17.0.0以降】

OpenSSLライブラリを利用します。

Systemwalker Operation Manager V17.0.0以降では、SMEE、SCLRライブラリをインストールしません。

Systemwalker Operation Manager V16.0.1以前の“Systemwalker Operation Manger 導入ガイド”の“Webコンソールの暗号化通信(HTTPS通信)の定義”で構築した証明書/鍵管理環境は、Systemwalker Operation Manager V17.0.0以降では使用できません。

[対処方法]

Systemwalker Operation Manager V17.0.0以降の“Systemwalker Operation Manager 導入ガイド”の“Webコンソール/Web APIの暗号化通信(HTTPS通信)の定義”を参照し、証明書/鍵管理環境を構築してください。

Systemwalker Operation Manager V16.0.1以前の証明書/鍵管理環境から移行する場合は、“Systemwalker Operation Manger 移行ガイド”の“証明書/鍵管理環境を移行する場合”を参照してください。

インストール、アンインストール実行時に出力するメッセージについての非互換項目【UNIX版】

以下の情報やメッセージが出力されなくなりました。

- ・ インストール処理中の、インストール先へ展開するファイルの一覧情報
- ・ アンインストール実行前の以下の確認メッセージ

```
<< 注意事項 >>
以下の製品は、他の製品で使用されている場合があるため削除しません。

- SMEE/SCLR

これらの製品を削除する場合は、マニュアルに記述されている手順に従って
削除する必要があります。
詳しくは、導入手引書の「アンインストール後の注意事項」をお読みください。

アンインストール処理を継続してもよろしいですか。
[y, n]
```

- ・ アンインストール実行後の以下のメッセージ

```
<< 注意事項 >>
以下の製品を削除する場合は、マニュアルに記述されている手順に従って
削除する必要があります。
詳しくは、導入手引書の「アンインストール後の注意事項」をお読みください。

- SMEE/SCLR
```

[対処方法]

メッセージ本文をアプリケーションプログラムや監視プログラムなどで利用している場合は、新しいメッセージ本文を認識するように変更してください。

メッセージについての非互換項目

- ・ 以下のソース名のメッセージが出力されなくなりました。
 - － F3FMwsc_OMGR
- ・ 以下のソース名のメッセージが出力されるようになりました。
 - － F3FMpcmi-STFJMJAVAEE 【Windows版】
 - － F3FMglassfish5-STFJMJAVAEE 【Windows版】
 - － GLASSFISH5 【UNIX版】

[対処方法]

メッセージ本文をアプリケーションプログラムや監視プログラムなどで利用している場合は、新しいメッセージ本文を認識するように変更してください。

2.14 V17.0.0からV17.0.1への移行

Systemwalker Operation Manager V17.0.0からSystemwalker Operation Manager V17.0.1へ移行する場合の非互換項目はありません。

2.15 V17.0.1からV17.1.0への移行

Systemwalker Operation Manager V17.0.1からSystemwalker Operation Manager V17.1.0へ移行する場合の非互換項目を示します。

2.15.1 非互換項目

ジョブスケジューラについての非互換項目

- REST実行ジョブの接続情報ファイルにおいて、下記パラメタの値にジョブ定義変数が指定可能になりました。
 - 接続URL
 - クエリパラメタ
 - リクエストヘッダ
 - リクエストメッセージボディ

これにより、対象のパラメタの値に“@変数名@”形式の文字列が存在し、「変数名」の部分と同じジョブ定義変数が存在した場合、“@変数名@”の部分がジョブ定義変数値に置き換えられます。

[対処方法]

ジョブ定義変数で使用する変数名を変更してください。

- V17.0.1以前のSystemwalker Operation ManagerからWindows Server 2025のOSにインストールされたSystemwalker Operation Managerに対して、jobschmsgeventコマンドのホスト名指定の実行によって、メッセージ事象を発生させることはできません。

[対処方法]

以下のいずれかの方法で対処してください。

- jobschmsgeventコマンドによるホスト名指定をやめ、ネットワークジョブとしてjobschmsgeventコマンドを実行する
- Systemwalker Operation ManagerをV17.1.0以降にアップグレードした上で、jobschmsgeventコマンドを-jmオプション指定で実行する
- jobschmsgeventexコマンドを利用する



- Windows Server 2025のOSにインストールされたSystemwalker Operation ManagerからWindows Server 2022以前のOSにインストールされたSystemwalker Operation Managerに対して、jobschmsgeventコマンドのホスト名指定の実行によって、メッセージ事象を発生させることはできません。(jmオプションを指定しない場合)

[対処方法]

以下のいずれかの方法で対処してください。

- jobschmsgeventコマンドによるホスト名指定をやめ、ネットワークジョブとしてjobschmsgeventコマンドを実行する
- jobschmsgeventコマンドに-jmオプションを指定して実行する
- jobschmsgeventexコマンドを利用する



メッセージについての非互換項目

- REST実行ジョブにおける接続情報のパラメタ誤りがあった場合に出力される下記エラーメッセージで、誤りとなったパラメタが表示される「KeyName=XXXX」の「XXXX」部分に出力されるキー名の表示形式が変更になりました。

－ MpJobsch: ERROR: 0604

－ MpJobsch: ERROR: 0605

－ MpJobsch: ERROR: 0606

－ MpJobsch: ERROR: 7604

－ MpJobsch: ERROR: 7605

－ MpJobsch: ERROR: 7606

【V17.0.1以前】

“キー名”

【V17.1.0以降】

“オブジェクト名.キー名”

接続情報のJSONでキー名の階層が複数ある場合は“オブジェクト名1.オブジェクト名2.(省略).キー名”に変更になります。

- REST実行ジョブが異常終了(注)、または、強制終了リクエスト設定時に強制終了された場合、HTTPリクエストのステータスコード、レスポンス結果が前回履歴に出力されるようになりました。

注：HTTPリクエストのステータスコード、レスポンス結果が併せて出力される異常終了時のエラーメッセージは、以下のとおりです。

－ MpJobsch: ERROR: 0609

－ MpJobsch: ERROR: 8609

－ MpJobsch: ERROR: 0613

－ MpJobsch: ERROR: 6613

－ MpJobsch: ERROR: 0614

－ MpJobsch: ERROR: 7614

－ MpJobsch: ERROR: 0615

－ MpJobsch: ERROR: 7615

2.16 V17.1.0からV17.1.1への移行

Systemwalker Operation Manager V17.1.0からSystemwalker Operation Manager V17.1.1へ移行する場合の非互換項目はありません。

第3章 プログラム修正情報

プログラム修正情報については、マニュアル一覧から参照してください。

付録A バージョンレベル間機能差一覧

Systemwalker Operation Managerのバージョンレベルにより提供される機能が異なります。バージョンレベル間の機能差を次の表に示します。

【Windows版】

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | V13.x | V16.x | V17.x | 備考 |
|---------------|---------------|---------------------|----------------|-------|-------|---------------------|
| セキュリティ | 拡張ユーザ管理機能 | | — | — | — | |
| | | アクセス制御 | ◎*1 V13.2.0 | ○ | ○ | *1 登録権の追加 |
| | | 実行ユーザの制限 | ★ V13.2.0 | ○ | ○ | |
| | | 監査ログ | ★ V13.2.0 | ○ | ○ | |
| | | Systemwalker認証リポジトリ | ★ V13.4.0 | ○ | × | |
| 電源スケジュール | サーバの電源投入/切断制御 | 単一サーバ電源制御 | ○*1 | ○*1 | ○ | *1 Windows x86サーバのみ |
| | | 複数サーバ電源制御 | ○*1 | ○*1 | ○ | *1 Windows x86サーバのみ |
| カレンダー | カレンダー | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 休日定義の反映開始日設定 | ★ V13.0.0 | ○ | ○ | |
| ジョブのスケジュールリング | ジョブ自動実行/ジョブ管理 | バッチ業務 | ○ | ○ | ○ | |
| | | Systemwalkerスクリプト | ○ | ○ | ○ | |
| | | リカバリジョブ | ○ | ○ | ○ | |
| | | 終了コードの条件分岐 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 終了処理ジョブネット | △*1 V13.4.0 | ○ | ○ | *1 登録先プロジェクトが変更 |
| | | GLOVIA連携 | × | — | — | |
| | | 旧バージョン互換(旧・標準)属性 | — | — | — | |
| | | | | | | |

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | V13.x | V16.x | V17.x | 備考 |
|-----|--------------|------------------------------------|----------------------------------|--------------|-------|--|
| | | ジョブ ネット | | | | |
| | | 定義の CSV記述 対応 | ○ | ○ | ○ | |
| | | ファイル 状態確認 コマンド | ◎*1 V13.8.0 | ○ | ○ | *1 作成/削除/更新の待ち 合わせ、ワイルドカード 指定が可能 |
| | | ログファ イル解析 コマンド | ○ | ○ | ○ | |
| | | 時刻(時間) 待ちコマ ンド | ◎*1 V13.8.0 | ○ | ○ | *1 指定時間待ち合わせが 可能 |
| | | 可変パラ メタ(ジョ ブネット 変数) | ★*1 V13.3.0 ◎*2 V13.8.0 | ○ | ○ | *1可変パラメタが指定可 能 *2ジョブネット変数が指 定可能 |
| | | プロジェ クト管理 | ○ | ○ | ○ | |
| | | グループ 機能 | ○ | ○ | ○ | |
| | | ジョブ ネットの 階層化 | ○ | ○ | ○ | |
| | | メッセー ジ連携 | ◎*1 V13.2.0 | ○ | ○ | *1メッセージ連携のジョ ブの持ち越しが可能 |
| | | ジョブ定 義変数 | ★ V13.3.0 | ○ | ○ | |
| | | リンク ジョブ ネット | ★ V13.4.0 | ○ | ○ | |
| | | OR待ち合 わせ | ★ V13.8.0 | ○ | ○ | |
| | | ジョブ ネットの 多重起動 | ★*1 V13.8.0 | ○ | ○ | *1複写起動による多重実 行が可能 |
| | | ジョブ/ ジョブ ネットに 対するメ モ機能 | ◎*1 V13.4.0 | ○ | ○ | *1 メモ検索が可能 |
| | | サブシス テムの日 変わり時 刻 | — | ★ V16.0.0 | ○ | |
| | ジョブ監 視・操作 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 複数サー バ監視 | ◎*1 V13.3.0 | ○ | ○ | *1一般ユーザ可 |

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | V13.x | V16.x | V17.x | 備考 |
|----------------|--------------|------------|----------------|-------|-------|----------------------------|
| | | ジョブ操作コマンド | ○ | ○ | ○ | |
| | | 起動日持越し制御 | ○ | ○ | ○ | |
| | | プロジェクト一括操作 | ★ V13.0.0 | ○ | ○ | |
| | 複数サーバ監視GUI | | ○ | ○ | ○ | |
| | ジョブ履歴表示 | | ○ | ○ | ○ | |
| | ジョブスケジュールの印刷 | | ○ | ○ | ○ | |
| | 起動日 | 営業日指定 | ★ V13.0.0 | ○ | ○ | |
| | | プレビュー表示 | ★ V13.4.0 | ○ | ○ | |
| ジョブの実行制御 | キュー制御 | | ○ | ○ | ○ | |
| | ネットワークジョブ機能 | | ◎*1 V13.4.0 | ○ | ○ | *1スケジュールサーバ名通知機能の追加 |
| | | 入出力ファイルの転送 | ★*1 V13.4.0 | ○ | ○ | *1デマンドジョブ実行時 |
| | 履歴情報の出力 | 履歴情報 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 稼働実績情報 | ○ | ○ | ○ | |
| | 負荷分散機能 | | ○ | ○ | ○ | 互換機能として存続 |
| | 分散実行機能 | | ◎*1 V13.4.0 | ○ | ○ | *1スケジュールサーバ名通知/投入失敗通知機能の追加 |
| | JCL | | ○ | ○ | ○ | |
| | 起動モード指定 | | ★ V13.4.0 | ○ | ○ | |
| リモートマシンでのジョブ実行 | | — | ★ V16.0.0 | ○ | | |
| イベントの監視 | | | ○ | ○ | ○ | |

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | V13.x | V16.x | V17.x | 備考 |
|--------------|------------------|-----|------------------------------------|-------|-------|--|
| アクションの管理 | アクションの監視・操作 | | ○ | ○ | ○ | |
| | アクションの実行API | | ○ | ○ | ○ | |
| バックアップ連携 | | | ○ | ○ | ○ | Arcserveが必須 |
| サービス/アプリの起動 | サービス起動機能 | | ○ | ○ | ○ | |
| | アプリケーション起動機能 | | ○ | ○ | ○ | |
| ポリシー運用 | | | ○ | ○ | ○ | |
| Web | Web連携機能 | | × V13.4.0 | — | — | |
| | Webコンソール | | ★ V13.4.0 ◎*1 V13.7.0 | ◎*2 | ○ | *1 GlassFish取り込み(通信基盤の削除) *2 インターネット利用可 |
| | シングル・サインオン | | ★*1 V13.4.0 ◎*1*2 V13.7.0 | ○ | × | *1 Systemwalkerシングル・サインオン *2 ServerViewシングル・サインオン |
| | Web API | | — | — | ★ | |
| 業務連携 | ファイル転送 | | ○ | ○ | ○ | |
| | ファイル圧縮/伸長 | | ○ | ○ | ○ | |
| | ファイル操作 | | ○ | ○ | ○ | |
| | アプリケーション起動 | | ○ | ○ | ○ | |
| | リモートアクセス制御 | | × | — | — | |
| | クライアントの電源投入/切断制御 | | ○ | ○ | ○ | |
| Interstage連携 | | | ○ | ○ | ○*1 | *1 連携可能なワークユニット：UTY/CORBAのみ |

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | V13.x | V16.x | V17.x | 備考 |
|-----------------------------------|-------------------------|-----------------------------------|----------------|-------|-------|---|
| Interstage Job Workload Server 連携 | | | ★ V13.3.0 | ○ | × | |
| クラウドサーバ連携 | | | — | — | ★ | |
| ERP製品との連携 | GLOVIA-C 販売情報システム | | × | — | — | GLOVIA V01系はサポート、ただし、V10系は未サポート |
| | SAP ERP | | ○ V13.3.0*1 | ○*1 | ◎*1*2 | “Systemwalker for R/3 ジョブ連携” が必須 *1 “Systemwalker for ERPパッケージ ジョブ連携” が必須 *2 SAP Job Scheduling サービスと連携可能 |
| | Oracle E-Business Suite | | — | — | — | |
| 高信頼性機能 | クラスタシステム対応 | Microsoft(R) Cluster Service | × | — | — | EEのみ |
| | | Microsoft(R) Fail Over Clustering | ★ V13.3.0 | ○ | ○ | EEのみ |
| | | SafeCLUSTER | × | — | — | EEのみ |
| | | Sun Cluster | — | — | — | |
| | | MC/serviceG HP serviceG | — | — | — | |
| | | PRIMECLUSTER | — | — | — | |
| | | HACMP PowerHA | — | — | — | |
| | 無停止バックアップ | | ○ | ○ | ○ | |
| | サーバ二重化 | ネットワークジョブの | ○ | ○ | ○ | |

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | V13.x | V16.x | V17.x | 備考 |
|--------------------------|---------------------------|--------------------------------|---------------------|-------|-------|--|
| | | 実行サーバ | | | | |
| グローバルサーバジョブ連携機能 | | | — | — | — | |
| 大規模システム | 大規模運用 | | ○ | ○ | ○ | EEのみ |
| | サブシステム | | ○ | ○ | ○ | EEのみ |
| スケジュールの分散(マスタスケジュール管理機能) | 運用日管理のスケジュール(日ごとスケジュール管理) | 日単位のスケジュールに分解して、各サーバで分散実行・管理する | ★ V13.1.0 | ○ | ○ | EEのみ 1台のサーバで管理サーバもスケジュールサーバも兼ねる運用形態のみサポート |
| | | 未来スケジュールへのマスタ変更の反映 | ★ V13.1.0 | ○ | ○ | |
| | | 過去日スケジュールの生成 | ★ V13.1.0 | ○ | ○ | |
| | 運用変更機能 | 業務定義を事前に変更可能とし、当日に一括反映する | ★ V13.1.0 | ○ | ○ | |
| | 持ち越し制御 | 日変わり時刻を越えた場合の対処と当日スケジュールの実行制御 | ★ V13.1.0 | ○ | ○ | |
| Job Designer | | | ★ △*1 V13.7.0 | ○ | ○ | *1 Entryシート削除 |
| | | 動作実績表示 | ★ | ○ | ○ | |
| ツール | インストール | | ◎*1 V13.4.0 | ○ | ○ | *1スタートアップアカウントが不要 |

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | V13.x | V16.x | V17.x | 備考 |
|-----|--------------|-------------------|--------------|-------|-------|----|
| | 共通ツール | 一括起動/ 停止 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 一括バックアップ/ リストア | ○ | ○ | ○ | |
| | 診断/保守 ツール | | ○ | ○ | ○ | |
| | FJQSS | | ★ V13.6.0 | ○ | ○ | |

- ：機能あり
- ★：新機能
- △：非互換あり
- ◎：機能エンハンスあり
- ×：機能削除
- ：機能なし

【UNIX版】

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | V13.x | V16.x | V17.x | 備考 |
|----------|-------------------|---------------------|---|--------------------|--------------------|--|
| | | | Solaris版 Linux版 Linux for Itanium版 HP-UX版 AIX版 | Solaris版 Linux版 | Solaris版 Linux版 | |
| セキュリティ | 拡張ユーザ管理機能 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | アクセス制御 | ◎*1 V13.2.0 | ○ | ○ | *1 登録権の追加 |
| | | 実行ユーザの制限 | ★ V13.2.0 | ○ | ○ | |
| | | 監査ログ | ★ V13.2.0 | ○ | ○ | |
| | | Systemwalker認証リポジトリ | ★ V13.4.0 | ○ | × | Solaris版/Linux版のみ |
| 電源スケジュール | サーバの電源投入/ 切断制御 | 単一サーバ電源制御 | ○*1 | ○*1 | △*2 | *1 SolarisサーバおよびLinux x86サーバのみ *2 シャットダウン、リブートのみ可 |
| | | 複数サーバ電源制御 | ○*1 | ○*1 | × | *1 SolarisサーバおよびLinux x86サーバのみ |
| カレンダー | カレンダー | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 休日定義の反映開始日設定 | ★ V13.0.0 | ○ | ○ | |

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | V13.x | V16.x | V17.x | 備考 |
|--------------|-------------------|------------------------|---|--------------------|--------------------|----------------------------------|
| | | | Solaris版 Linux版 Linux for Itanium版 HP-UX版 AIX版 | Solaris版 Linux版 | Solaris版 Linux版 | |
| ジョブのスケジューリング | ジョブ自動実行/ ジョブ管理 | バッチ業務 | ○ | ○ | ○ | |
| | | Systemwalkerスクリプト | ○ | ○ | ○ | |
| | | リカバリジョブ | ○ | ○ | ○ | |
| | | 終了コードの条件分岐 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 終了処理ジョブネット | — | — | — | |
| | | GLOVIA連携 | — | — | — | |
| | | 旧バージョン互換(旧・標準)属性ジョブネット | ○ | ○ | ○ | |
| | | 定義のCSV記述対応 | ○ | ○ | ○ | |
| | | ファイル状態確認コマンド | ◎*1 V13.8.0 | ○ | ○ | *1 作成/削除/更新の待ち合わせ、ワイルドカード指定が可能 |
| | | ログファイル解析コマンド | ○ | ○ | ○ | |
| | | 時刻(時間)待ちコマンド | ◎*1 V13.8.0 | ○ | ○ | *1 指定時間待ち合わせが可能 |
| | | 可変パラメタ(ジョブネット変数) | ★*1 V13.3.0 ◎*2 V13.8.0 | ○ | ○ | *1可変パラメタが指定可能 *2ジョブネット変数が指定可能 |
| | | プロジェクト管理 | ○ | ○ | ○ | |
| | | グループ機能 | ○ | ○ | ○ | |
| ジョブネットの階層化 | ○ | ○ | ○ | | | |

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | V13.x | V16.x | V17.x | 備考 |
|-----|--------------|--------------------|---|--------------------|--------------------|---------------------------------|
| | | | Solaris版 Linux版 Linux for Itanium版 HP-UX版 AIX版 | Solaris版 Linux版 | Solaris版 Linux版 | |
| | | メッセージ連携 | ◎*1 V13.2.0 | ○ | ○ | *1メッセージ連携のジョブの持ち越しが可能 |
| | | ジョブ定義変数 | ★ V13.3.0 | ○ | ○ | |
| | | リンクジョブネット | ★ V13.4.0 | ○ | ○ | |
| | | OR待ち合わせ | ★ V13.8.0 | ○ | ○ | |
| | | ジョブネットの多重起動 | ★*1 V13.8.0 | ○ | ○ | *1複写起動による多重実行が可能 |
| | | ジョブ/ジョブネットに対するメモ機能 | ◎*1 V13.4.0 | ○ | ○ | *1 メモ検索が可能 |
| | | サブシステムの日変わり時刻 | ★*1 V13.9.0 | ○*2 | ○ | *1 Linux版 *2 Linux版/Solaris版 |
| | ジョブ監視・操作 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 複数サーバ監視 | ◎*1 V13.3.0 | ○ | ○ | *1一般ユーザ可 |
| | | ジョブ操作コマンド | ○ | ○ | ○ | |
| | | 起動日持越し制御 | ○ | ○ | ○ | |
| | | プロジェクト一括操作 | ★ V13.0.0 | ○ | ○ | |
| | 複数サーバ監視GUI | | ○ | ○ | ○ | |
| | ジョブ履歴表示 | | ○ | ○ | ○ | |
| | ジョブスケジューラの印刷 | | ○ | ○ | ○ | |
| | 起動日 | 営業日指定 | ★ V13.0.0 | ○ | ○ | |

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | V13.x | V16.x | V17.x | 備考 |
|----------------------------|--------------------------|--------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------------------------|
| | | | Solaris版 Linux版 Linux for Itanium版 HP-UX版 AIX版 | Solaris版 Linux版 | Solaris版 Linux版 | |
| | | プレ ビュー表 示 | ★ V13.4.0 | ○ | ○ | |
| ジョブ の実行 制御 | キュー制 御 | | ○ | ○ | ○ | |
| | ネット ワーク ジョブ機 能 | | ◎*1 V13.4.0 | ○ | ○ | *1スケジュールサーバ名 通知機能の追加 |
| | | 入出力 ファイル の転送 | ★*1 V13.4.0 | ○ | ○ | *1デマンドジョブ実行時 |
| | 履歴情報 の出力 | 履歴情報 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 稼働実績 情報 | ○ | ○ | ○ | |
| | 負荷分散 機能 | | — | — | — | |
| | 分散実行 機能 | | ◎*1 V13.4.0 | ○ | ○ | *1スケジュールサーバ名 通知/投入失敗通知機能 の追加 |
| | JCL | | ○ | ○ | ○ | |
| | 起動モー ド指定 | | ★ V13.4.0 | ○ | ○ | |
| リモート マシンで のジョブ 実行 | | ★*1 V13.9.0 | ○*2 | ○ | *1 Linux版 *2 Linux版/Solaris版 | |
| イベン トの監 視 | | — | — | — | | |
| アク ション の管理 | | — | — | — | | |
| バックアップ連携 | | | — | — | — | — |
| サービ ス/アプ リの起 動 | サービス 起動機能 | | — | — | — | |
| | アプリ ケーション 起動機 能 | | ○ | ○ | ○ | |
| ポリ シー運 用 | | | ○ | ○ | ○ | |

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | V13.x | V16.x | V17.x | 備考 |
|--|------------------------------|-----|--|--------------------|--------------------|--|
| | | | Solaris版 Linux版 Linux for Itanium版 HP-UX版 AIX版 | Solaris版 Linux版 | Solaris版 Linux版 | |
| Web | Web連携 機能 | | × V13.4.0 | — | — | |
| | Webコン ソール | — | ★ V13.4.0 ◎*1 V13.7.0 | ◎*2 | ○ | *1 GlassFish取り込み(通 信基盤の削除) *2 インターネット利用 可 |
| | シング ル・サイ ンオン | | ★*1 V13.4.0 ◎*1*2 V13.7.0 | ○*1*2 | × | *1 Systemwalkerシング ル・サインオン(Solaris 版/Linux版のみ) *2 ServerViewシング ル・サインオン(Linux版 のみ) |
| | Web API | | — | — | ★*1 | *1 Linux版のみ |
| 業務連 携 | ファイル 転送 | | ○ | ○ | ○ | |
| | ファイル 圧縮/伸長 | | ○ | ○ | ○ | |
| | ファイル 操作 | | ○ | ○ | ○ | |
| | アプリ ケーショ ン起動 | | ○ | ○ | ○ | |
| | リモート アクセス 制御 | | — | — | — | |
| | クライア ントの電 源投入/切 断制御 | | ○ | ○ | ○ | |
| Intersta ge連携 | | | ○ | ○ | ○*1 | Solaris版/Linux版/Linux for Itanium版のみ *1 連携可能なワークユ ニット：UTY/CORBA のみ |
| Intersta ge Job Worklo ad Server 連携 | | | ★*1 V13.0.0 ○*2 V13.2.0 ○*3 V13.4.0 ○*4 V13.6.0 | ○ | ○ | *1 Linux for Itanium版 のみ *2 Solaris版 Linux for Itanium版のみ *3 Solaris版 Linux for Itanium版 Linux x64版のみ *4 Solaris版 Linux x64版のみ |

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | V13.x | V16.x | V17.x | 備考 |
|----------------------|-------------------------|-----------------------------------|---|--------------------|--------------------|--|
| | | | Solaris版 Linux版 Linux for Itanium版 HP-UX版 AIX版 | Solaris版 Linux版 | Solaris版 Linux版 | |
| クラウドサービ連携 | | | — | — | ★*1 | *1 Linux版のみ |
| ERP製品との連携 | GLOVIA-C 販売情報システム | | — | — | — | |
| | SAP ERP | | ○ V13.3.0*1 V13.6.0*2 | ○*2 | ◎*2*3 | Solaris版のみ “Systemwalker for R/3 ジョブ連携” が必須 *1 Solaris版/Linux版/Linux for Itanium版のみ “Systemwalker for ERPパッケージ ジョブ連携” が必須 *2 Solaris版/Linux版のみ “Systemwalker for ERPパッケージ ジョブ連携” が必須 *3 SAP Job Scheduling サービスと連携可能 【Linux版】 |
| | Oracle E-Business Suite | | ○ V13.3.0*1 | ○*1 | ○*1 | Solaris版のみ “Systemwalker for Oracle E-Business Suite ジョブ連携” が必須 *1 Solaris版/Linux版のみ “Systemwalker for ERPパッケージ ジョブ連携” が必須 |
| Workload Organizer連携 | | | ○ V13.0.0のみ | — | — | Solaris版のみ “Workload Organizer” が必須 |
| 高信頼性機能 | クラスターシステム対応 | Microsoft(R) Cluster Server | — | — | — | |
| | | Microsoft(R) Fail Over Clustering | — | — | — | |

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | V13.x | V16.x | V17.x | 備考 |
|--|---|--|---|--------------------|--------------------|---|
| | | | Solaris版 Linux版 Linux for Itanium版 HP-UX版 AIX版 | Solaris版 Linux版 | Solaris版 Linux版 | |
| | | SafeCLUSTER | × | — | — | Solaris版 EEのみ |
| | | Sun Cluster*1/ Oracle Solaris Cluster | ○ | ○ | ○ | Solaris版 EEのみ *1 V13.xまで対応 |
| | | MC/ serviceG HP serviceG | ○ | — | — | HP版 EEのみ |
| | | PRIMECLUSTER | ○ V13.0.0*1 V13.4.1*2 | ○*2 | ○*2 | EEのみ *1 Solaris版/Linux版/ Linux for Itanium版のみ *2 Solaris版/Linux版のみ |
| | | HACMP PowerHA | ★ V13.2.0 | — | — | AIX版 EEのみ 1:1運用待機、2ノード相互待機のみ |
| | 無停止 バック アップ | | ○ | ○ | ○ | |
| | サーバ二 重化 | ネット ワーク ジョブの 実行サー バ | ○ | ○ | ○ | |
| グロー バル サーバ ジョブ 連携機 能 | | | ○ | ○ | ○ | Solaris版 GEEのみ |
| 大規模 システ ム | 大規模運 用 | | ○ | ○ | ○ | EEのみ |
| | サブシス テム | | ○ | ○ | ○ | EEのみ |
| スケ ジュールの分 散(マス タスケ ジュール管理 機能) | 運用日管 理のスケ ジュール (日ごとスケ ジュール管理) | 日単位の スケ ジュール に分解し て、各 サーバで 分散実 | ○ V13.2.0*2 | ○ | ○ | EEのみ *1 Solaris版/Linux版/ Linux for Itanium版 *2 Solaris版/Linux版/ Linux for Itanium版/HP 版/AIX版 |

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | V13.x | V16.x | V17.x | 備考 |
|---------------------|-----------------------------|---|---|--------------------|--------------------|---------------|
| | | | Solaris版 Linux版 Linux for Itanium版 HP-UX版 AIX版 | Solaris版 Linux版 | Solaris版 Linux版 | |
| | | 行・管理 する | | | | |
| | | 未来スケ ジュール へのマス タ変更の 反映 | ★*1 V13.2.0*2 | ○ | ○ | |
| | | 過去日ス ケジュールの生成 | ★*1 V13.2.0*2 | ○ | ○ | |
| | 運用変更 機能 | 業務定義 を事前に 変更可能 とし、当 日に一括 反映する | ○ V13.2.0*2 | ○ | ○ | |
| | 持ち越し 制御 | 日変わり 時刻を越 えた場合 の対処と 当日スケ ジュール の実行制 御 | ○ V13.2.0*2 | ○ | ○ | |
| Job Design er | | | ★ △*1 V13.7.0 | ○ | ○ | *1 Entryシート削除 |
| | | 動作実績 表示 | ★ | ○ | ○ | |
| ツール | インス トール | | ○ | ○ | ○ | |
| | 共通ツ ール | 一括起動/ 停止 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 一括バッ クアップ/ リストア | ○ | ○ | ○ | |
| | 診断/保守 ツール | | ○ | ○ | ○ | |
| | FJQSS | | ★ V13.7.0 | ○ | ○ | |
| オプ ション | Consolida tion Option | | ★ V13.9.0 | - | - | Linux版 EEのみ |

- ：機能あり
- ★：新機能
- △：非互換あり
- ◎：機能エンハンスあり
- ×：機能削除
- －：機能なし

付録B 本書の表記、商標について

B.1 略称表記について

- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2025”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2025 Datacenter(x64)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2025 Standard(x64)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2022”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2022 Datacenter(x64)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2022 Standard(x64)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2019”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Datacenter(x64)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Standard(x64)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2016”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Datacenter(x64)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard(x64)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2012 R2”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Foundation(x64)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard(x64)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter(x64)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2012”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Foundation(x64)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard(x64)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter(x64)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Foundation(x64)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard(x64)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter(x64)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Server Core”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2025 Datacenter Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2025 Standard Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2022 Datacenter Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2022 Standard Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Datacenter Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Standard Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Datacenter Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard Server Core
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard(x86)/(x64)

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise(x86)/(x64)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter(x86)/(x64)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation(x64)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)(x86)/(x64)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)(x86)/(x64)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)(x86)/(x64)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation(x64)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard(x64)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise(x64)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter(x64)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 STD” と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 DTC” と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 EE” と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) 11” と表記します。
 - Windows(R) 11 Home(x64)
 - Windows(R) 11 Pro(x64)
 - Windows(R) 11 Enterprise(x64)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) 10” と表記します。
 - Windows(R) 10 Home(x64)
 - Windows(R) 10 Pro(x64)
 - Windows(R) 10 Enterprise(x64)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) 8.1” と表記します。
 - Windows(R) 8.1 (x64)
 - Windows(R) 8.1 Pro(x64)

- － Windows(R) 8.1 Enterprise(x64)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) 8” と表記します。
 - － Windows(R) 8 (x86)
 - － Windows(R) 8 Pro (x86)
 - － Windows(R) 8 Enterprise(x86)
 - － Windows(R) 8 (x64)
 - － Windows(R) 8 Pro(x64)
 - － Windows(R) 8 Enterprise(x64)
 - － Windows(R) 8.1 (x86)
 - － Windows(R) 8.1 Pro (x86)
 - － Windows(R) 8.1 Enterprise(x86)
 - － Windows(R) 8.1 (x64)
 - － Windows(R) 8.1 Pro(x64)
 - － Windows(R) 8.1 Enterprise(x64)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) 7” と表記します。
 - － Windows(R) 7 Home Premium(x86)
 - － Windows(R) 7 Professional(x86)
 - － Windows(R) 7 Enterprise(x86)
 - － Windows(R) 7 Ultimate(x86)
 - － Windows(R) 7 Home Premium(x64)
 - － Windows(R) 7 Professional(x64)
 - － Windows(R) 7 Enterprise(x64)
 - － Windows(R) 7 Ultimate(x64)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Vista(R)” と表記します。
 - － Windows Vista(R) Home Basic(x86)
 - － Windows Vista(R) Home Premium(x86)
 - － Windows Vista(R) Business(x86)
 - － Windows Vista(R) Enterprise(x86)
 - － Windows Vista(R) Ultimate(x86)
 - － Windows Vista(R) Home Basic(x64)
 - － Windows Vista(R) Home Premium(x64)
 - － Windows Vista(R) Business(x64)
 - － Windows Vista(R) Enterprise(x64)
 - － Windows Vista(R) Ultimate(x64)
- Windows Internet Explorer(R)を示す場合は、“Internet Explorer” と表記します。
- 以下のOS上で動作するSystemwalker Operation Managerを “Windows版 Systemwalker Operation Manager” または “Windows版” と表記します。
 - － Windows

－ Itanium以外の64ビットアーキテクチャに対応したWindows

- 32ビットアーキテクチャに対応したWindows上で動作するSystemwalker Operation Managerの固有記事を“Windows x86版”と表記します。
- Itaniumに対応したWindows上で動作するSystemwalker Operation Managerの固有記事を“Windows for Itanium版”と表記します。
- Itanium以外の64ビットアーキテクチャに対応したWindows上で動作するSystemwalker Operation Managerの固有記事を“Windows x64版”と表記します。
- Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EE、Server Core、Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows Server 2022およびWindows Server 2025を、“Windowsサーバ”と表記している箇所があります。
- Oracle Solarisは、Solaris、Solaris Operating System、Solaris OSと記載することがあります。
- Solaris上で動作するSystemwalker Operation Managerを“Solaris版 Systemwalker Operation Manager”または“Solaris版”と表記します。
- 32ビットアーキテクチャに対応したSolaris上で動作するSystemwalker Operation Managerの固有記事を“Solaris 32bit版”と表記します。
- 64ビットアーキテクチャに対応したSolaris上で動作するSystemwalker Operation Managerの固有記事を“Solaris 64bit版”と表記します。
- UXP/DS上で動作するSystemwalker Operation Managerを“DS版 Systemwalker Operation Manager”または“DS版”と表記します。
- HP-UX上で動作するSystemwalker Operation Managerを“HP-UX版 Systemwalker Operation Manager”または“HP-UX版”と表記します。
- AIX上で動作するSystemwalker Operation Managerを“AIX版 Systemwalker Operation Manager”または“AIX版”と表記します。
- 以下のOS上で動作するSystemwalker Operation Managerを“Linux版 Systemwalker Operation Manager”または“Linux版”と表記します。

－ Linux

－ Itanium以外の64ビットアーキテクチャに対応したLinux

- 32ビットアーキテクチャに対応したLinux上で動作するSystemwalker Operation Managerの固有記事を“Linux x86版”と表記します。
- Itaniumに対応したLinux上で動作するSystemwalker Operation Managerの固有記事を“Linux for Itanium版”と表記します。
- Itanium以外の64ビットアーキテクチャに対応したLinux上で動作するSystemwalker Operation Managerの固有記事を“Linux x64版”と表記します。
- Solaris版、DS版、HP-UX版、AIX版、Linux版およびLinux for Itanium版のSystemwalker Operation Managerを包括して、“UNIX版 Systemwalker Operation Manager”または“UNIX版”と表記します。
- Solaris、HP-UX、AIX、Linux、およびUXP/DSを、“UNIXサーバ”と表記している箇所があります。
- Systemwalker Operation Manager Standard Editionを“SE版”と表記している箇所があります。
- Systemwalker Operation Manager Enterprise Editionを“EE版”と表記している箇所があります。
- Systemwalker Operation Manager Global Enterprise Editionを“GEE版”と表記している箇所があります。
- Standard EditionをSE、Enterprise EditionをEE、Global Enterprise EditionをGEEと表記している箇所があります。
- Windows Server フェールオーバー クラスタおよびWindows Server Failover Clusteringは、Microsoft(R) Fail Over Clusteringと記載することがあります。

- Arcserve(R) Backup for Windowsを、Arcserveと表記します。
- Windows NT(R)で標準に提供されているMicrosoft(R)-MailをMS-Mailと表記します。

B.2 商標について

Amazon Web Services、その他のAWS商標は、Amazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。

APC、PowerChuteは、シュナイダー・エレクトリック・アイティイー・コーポレーションの登録商標です。

Arcserveのすべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、Arcserve (USA), LLC.またはその子会社の登録商標または商標です。

HP-UXは、米国およびその他の国におけるHewlett-Packard Companyの登録商標です。

IBM、IBMロゴ、AIX、AIX 5L、HACMP、Power、PowerHAは、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporationの商標です。

Intel、Itaniumは、アメリカ合衆国および/またはその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標です。

Linux(R)は米国およびその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。

MC/ServiceGuardは、米国Hewlett Packard Enterprise Development LPの米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、Azureまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle(R)およびJavaは、オラクルおよび関連会社の登録商標です。

Red Hatは、米国およびその他の国において登録されたRed Hat, Inc.の商標です。

SAP、SAP R/3、およびその他のSAPの製品やサービス、ならびにそれらの個々のロゴは、ドイツおよびその他の国におけるSAP SE(またはその関連会社)の商標または登録商標です。

UNIXは、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。

VMwareおよびVMwareの製品名は、Broadcom Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。

ショートメールは、株式会社NTTドコモの登録商標です。

そのほか、本マニュアルに記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。